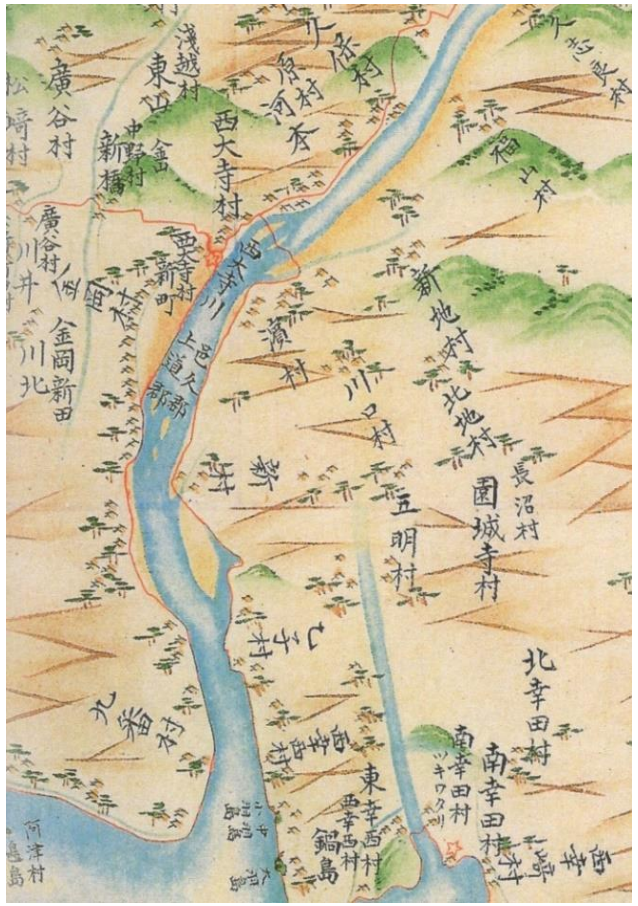
西大寺を二度訪れた伊能忠敬
Part2　伊能忠敬の足跡

202１年11月28日
西大寺愛郷会
藤井　英幸



伊能忠敬の年表（2）

和暦	西暦	歳	内容
寛政12年	1800年	56	第1次測量　(蝦夷地・奥州街道)。間宮林蔵と出会う。
享和元年	1801年	57	第2次測量　(伊豆～陸奥の海岸線、奥州街道)
享和2年	1802年	58	第3次測量　(陸奥～越後の海岸線、越後街道)
享和3年	1803年	59	第4次測量　(駿河～尾張、越前～越後の海岸線と街道、佐渡島)
文化元年	1804年	60	高橋至時病死(40歳)、東日本の沿岸地図を作成し、幕府に提出。10人扶持を受ける。
文化2年	1805年	61	第5次測量　(紀伊半島～琵琶湖、淀川沿い～山陽・山陰海岸線、島嶼)、岡山で越年。
文化5年	1808年	64	第6次測量　(四国・淡路島、大和・伊勢街道)、伊勢で越年
文化6年	1809年	65	第7次測量　(中山道・山陽道、九州(小倉・大分で越年)～中国地方の街道、甲州街道)
文化8年	1811年	67	第8次測量　(九州～中国地方の街道、姫路で越年、近畿地方)
文化12年	1815年	71	第9次測量　(江戸府内一次、伊豆諸島、熱海で越年。富士山裾野、箱根)忠敬は参加せず。
文化13年	1816年	72	第10次測量　(江戸府内二次)、『大日本沿海輿地全図』作成着手。
文化15年	1818年	74	4月13日 死去、喪を秘して地図製作を続行。
文政4年	1821年		没後『大日本沿海輿地全図』完成、三ヶ月後喪を公表。
明治16年	1823年		没後贈正四位

表１　伊能忠敬・測量の概要

（１尺＝0.30303ｍとして換算）

年令（才）	測量回数	測量地方	江戸出発年月日 旧暦	江戸出発年月日 西洋暦	江戸帰着年月日 旧暦	江戸帰着年月日 西洋暦	日数	測量全距離 km（再測量含む）	測量隊旅行全距離（海上旅行距離は含まず）	忠敬自身の旅行距離（不参加部分を除いたもの）
56	I	奥州街道 蝦夷南東岸	寛政12 4.19	1,800 6.11	同年 10.21	1,800 12. 7	180	3,224.89	3,224.89	3,224.89
57	II	相模伊豆	享和1 4. 2	1,801 5.14	同年 6. 6	1,801 7.16	64	572.29	572.29	572.29
		本州東海岸	享和1 6.19	1,801 7.29	同年 12. 7	1,802 1.10	166	2,550.09	2,550 .09	2,379.34
58	III	羽越	享和2 6.11	1,802 7.10	同年 10.23	1,802 11.18	132	1,701.04	1,701.04	1,701.04
59	IV	尾張越前以東	享和3 2.25	1,803 4.16	同年 10. 7	1,803 11.20	219	2,176.63	2,176.63	1,752.45
61～62	V	中国	文化2 2.25	1,805 3.25	文化3 11.15	1,806 12.24	640	5,383.15	6,992.69	5,385.18
64～65	VI	四国	文化5 1.25	1,808 2.21	文化6 1.18	1,809 3. 3	377	3,442.67	4,568.33	4,457.29
65～67	VII	九州一次	文化6 8.27	1,809 10. 6	文化8 5. 8	1,811 6.28	631	7,005.97	7,409.75	6,256.57
67～70	VIII	九州二次	文化8 11.25	1,812 1. 9	文化11 5.25	1,814 7. 9	913	11,530.49	13,083.43	9,378.31
71～72	IX	伊豆七島（忠敬不参加）	文化12 4.27	1,815 6. 4	文化13 4.12	1,816 5. 8	340	1,200.62	1,433.27	0
72	X	江戸府内	文化13 8. 8	1,816 9.29	同年 10.23	1,816 12.11	74	?	?	?
計							3,736日	38,787.84km	43,707.91km	35,108.36km

主測線距離（大日本沿海実測録から集計）

沿海	3,792里16町	1間	＝ 14,894.07km
島嶼湖沼周辺	1,746里11町14間		＝ 6,858.29km
街道	3,048里10町19間		＝ 11,971.54km
計	8,587里	1町34間	＝ 33,723.90km

（保柳睦美博士の計算による）

忠敬５６歳から７２歳まで１６年間の歳月をかけ

自身の足で３万５千ｋｍ、ほぼ地球一周４万ｋｍを歩いた

三度の岡山県下、二度の西大寺訪問

測量行	出発－帰着	場所	期間
第一次測量	寛政12年（1800年）閏4月19日ー10月21日	蝦夷地	117日間
第二次測量	享和元年（1801年）4月2日－12月7日	伊豆～東日本太平洋側	230日間
第三次測量	享和2年（1802年）6月11日－10月23日	東北日本海側	132日間
第四次測量	享和3年（1803年）2月25日－10月7日	東海・北陸地方	219日間
第五次測量	文化2年（1805年）2月25日－文化3年11月15日 （文化2(1805)年11月1日～文化3年1月28日）	近畿・中国地方 （岡山日生村・**西大寺村**・岡山城下・笠岡村）	1年 9ヶ月間
第六次測量	文化5年（1808年）1月25日－文化6年1月18日	四国	約1年間
第七次測量	文化6年（1809年）8月27日－文化8年5月8日 （文化6(1809)年11月19～27日） （文化8(1811)年閏2月17日～3月1日）	九州前半 （岡山三石宿・岡山城下・七日市駅） （岡山畑木村・松山城下・岡山城下・片上駅）	1年 9ヶ月間
第八次測量	文化8年（1811年）11月25日－文化11年5月22日 （文化9(1812)年1月8～12日） （文化10(1813)年12月2日～19日）	九州後半 （岡山三石駅・一日市駅・板倉駅・矢掛駅） （岡山馬桑村・津山城下・岡山城下・**西大寺村**・土居村）	913日間
第九次測量	文化12年（1815年）4月27日－文化13年4月12日	伊豆諸島	約1年間
第十次測量	文化12年（1815年）2月3日－2月19日	江戸	約半月間

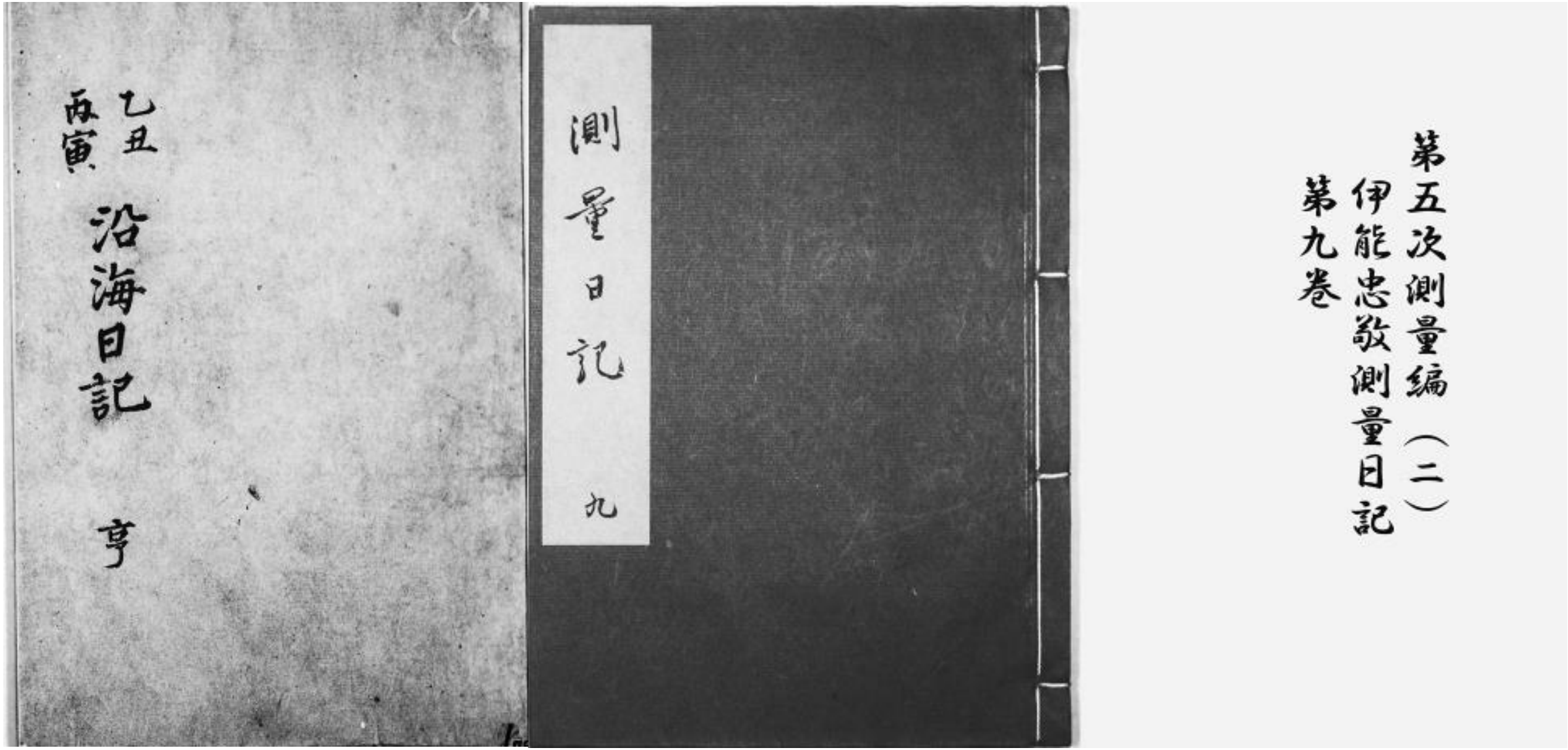
最初の西大寺・岡山

第五次測量
文化2(1805)年2月25日～文化3(1806)年11月15日

笠岡村	入江新田村	白石島	真鍋島	入江新田村	黒崎村	連島大江村	庭瀬町	岡山城下	彦崎村	八浜村	阿津村	番田村	山田村	田井村	日比村	田ノ口村	下津井村	塩生村	福田新田	藤戸村	早島沖新田村	米倉村	一番村	西大寺村	南幸田村	東片岡村	牛窓村	尻見村	虫明村	片上駅	灘田村	日生村	大多府島	日生村	宿泊地

江戸を出発し、東海道を沼津、浜名湖を経て桑名に到着。ここで大手分けを行い、支隊は伊勢の海岸、本隊は 街道を測量して、山田（伊勢市）で合流。のち紀州沿海を一周し大阪に着く。京都、大津を経て、琵琶湖を一周。
尼崎、姫路を経由し、西大寺・岡山に到着。データの整理や控え図の作成などをしながら、越年。
岡山出発、複雑な瀬戸内海の沿海と島々を測量しながら、赤間関（下関）に達する。
忠敬は4月末より持病のおこりとなり、移動しながら療養する。萩、浜田、松江と進み、忠敬は療養のために松江 に残り、測量隊は隠岐に渡る。隠岐全島、出雲、宍道湖を終えたころ、忠敬の病も癒え、松江を出発。
山陰海岸、若狭湾、琵琶湖の東西の街道を測量ののち、東海道を東進、熱田着。以降は測量を行わずに東海道を江戸に向かう。途中何カ所かで天測を行って、品川宿に帰着。640日、約5400Kmの行程

伊能忠敬の西大寺訪問（1）第五次測量



伊能忠敬測量日記第九巻
第五次測量　文化二年十一月十一日～十五日（牛窓～西大寺）

本国と測ル高橋下河内ヲ小坂伯耆　昨日の海岸沿を測ル　又国境ヲ境ヲ
測ル　七つ半ヒ坂宿　東河坂部郡　此夜晴天測量　小三郎　惣兵衛　上花村
花屋子一ヒ　小海村年寄平治郎　来て年を後測の絵を写ス
同九日　絵ヲ晴天六つ半ヒ　玉野村ヲ出ル　多ヲ一ヒ　高橋稲生坂伯耆
吉平　文助　同村ヲ国道屏海村と測　又大橋弁天橋を測　東河下河辺
平山永澤　宗治　玉明村海岸ヲ屏海村ヲ測　五ヒ七ヒ
ヒ　上宿　屏海村　神坂花幸吉　此夜晴天測量
同十日　絵晴天六つ半ヒ　屏海村ヲ出ル　多ヲ高橋稲生永澤伯耆
吉平　文助　屏海村ヲ国道牛窓浦と測　東河下河内　平山小坂　宗二　文助
屏海村ヲ海岸牛窓浦と測　五ヒ八つ後牛窓町ヒ　上宿
中惣花　神吉
同十一日　絵晴天六つ半ヒ　牛窓浦ヲ出ル　多ヲ高橋平山稲生　吉平　文助

同村博の前橋と測　東河下河内　永澤小坂　宗二　文助　黒橋中小橋
端小橋　東橋　大橋　二番　七つ半ヒ　一番　七つ半ヒ　牛窓　坂宿
此夜晴天測量
同十二日朝晴天六つ後牛窓村ヲ出ル　高橋永澤伯耆ヲ　東河岸浦海岸
東平国村と測　下河内稲生小坂　牛窓浦ヲ国を東平国村と測ル
五ヒ一周　八つ後ヒ　上宿　東平国村　幸宝橋　橋治郎　宗二　文助　吉治郎
此夜雨　四つ半ヒ上ヲ晴天
同十三日　絵中晴　七つ半ヒ　東平国村ヲ出ル　下河内　永澤小坂　東河岸
宗二　文助　大橋ヲ渡リ　神敷地橋　大橋　竹子橋　神竹子橋と測　西風強
波高シ　夜ニ入テ　南幸田村ヒ　高橋稲生伯耆　吉平　文助　東平国村ヲ
海岸を南幸田村ヲ渡リ測　上宿　南幸田村　戒花屋　平　此夜晴天測量
同十四日　絵晴天六つ後　南幸田村ヲ出ル　多ヲ高橋永澤伯耆　角二

乙子村ヲ　西大寺村ヒ　渡ヲ測　下河内ヒ　小坂稲生　宗二　文助　南幸田村ヒ
乙子村ヒ測　此所多食　両ヲ八つ後　西大寺村ヲ出ル　上宿　坂花屋
坂部平山　吉平　宗二　利助　七ヒ　荷物　此夜晴天　西風　測量ヲ正
此夜上道郡大花屋　戒越村　河合武兵衛　神橋村　国橋屋　彩村
玉井六郎兵衛　伊野郡大花屋　岩屋　加茂　口の里村長洲岩郎
加ル
同十五日　絵晴天六つ後　西大寺村ヲ出ル　多ヲ高橋下河内稲生伯耆
宗二　文助　九番村ヲ神一番村と測ル　東平坂部　宗二　文助　永澤小坂　角二　宗六
西大寺村ヲ九番村と測ヲ合測　中食　宿　射越屋　八　赤絵橋
八つ後　五ヒ一　一番村ヲ出ル　上宿　安左衛門　此日郡花と国山を越ル
上宿と安左衛門　暦司へ用物を出ル　吉平　昨日の宿　此日晴ヒ
雲海風　山ヲ雲と成　七ヒ晴ル　夜測量

文化二年十一月

同十一日　朝曇天。六ツ半後牛窓湊出立。手分。高橋、平山、稲生、（吉平、丈助）、同村の前島を測。東河、下河辺、永沢、小坂、（栄二、半六）、黒島、中ノ小島、端ノ小島、本島、大島を測る。二番は七ツ頃、一番は七ツ半頃に牛窓(中崎屋初右衛門)へ帰宿。此夜晴天測量。

同十二日　朝曇天。六ツ後牛窓村出立。高橋、永澤、佐藤へ東河差添海岸東片岡村迄測。下河辺、稲生、小坂、牛窓湊より岡を東片岡村迄測ル。両手一同ニ八ツ後ニ着。止宿東片岡村字宝伝、伝治郎、嘉三郎、吉治郎三軒。此夜雨。四ツ頃より止テ曇天

同十三日　朝中晴。七ツ半頃東片岡村出立。下河辺、永澤、小坂、東河差添、(栄二、半六)、犬嶋へ渡リ沖鞁地嶋(沖鼓島)、犬嶋、竹子嶋(地竹ノ子島)、沖竹子嶋を測。西風強シテ波高し。夜ニ入テ南幸田村へ着

高橋、稲生、佐藤、（吉平、丈助）、東片岡より海辺を南幸田村へ鎖ニテ測。止宿南幸田村磯屋太平。此夜晴天測量。

同十四日　朝中晴。六ツ後南幸田村出立。手分

高橋、永澤、佐藤、角二、乙子より西大寺村迄鎖ニテ測。下河辺、小坂、稲生、(栄二、丈助)、南幸田村より乙子村迄測（此所にて中食）。両手八ツ後西大寺村へ着。止宿坂口屋松左衛門。坂部、平山、吉平病気。（利助は長々病気。荷物宰領）。此夜晴天大西風。測量不正。此夜上道郡大庄屋浅越村河合武兵衛、神崎村岡崎藤右衛門、新村草井六郎右衛門、御野郡大庄屋岩藤嘉左衛門、同断田中村長瀬岩太郎出ル。

同十五日　朝曇天。六ツ後西大寺村出立。手分。高橋、下河辺、稲生、佐藤、(栄二、丈助)、九番村より初、一番村迄測ル。我等、坂部（出勤）、永澤、小坂、(角二、半六)、西大寺村より九番村迄測テ合測。中食。宿射越屋紋八（家作、諸器ともによし）八ツ後両手共一番村ニ着。止宿安太夫。此日郡蔵を岡山へ遣、越年の止宿を相談す。暦局へ用状を出す。（吉平、昨日より病気）。此日昼頃より雪降風、山々雪と成。七ツ頃より晴ル。夜測量。

第5次測量隊

	名前	説明
隊長	東河	伊能忠敬
天文方	高橋	高橋善助（渋川景佑 。高橋至時の次男で、後に天文方渋川富五郎正陽の養子になる。
	坂部	坂部貞兵衛。数学を学んで暦局に出仕。忠敬の信頼が厚く、副隊長格だった。
	下河辺	下河辺政五郎。西丸御書院番小笠原若狭守組同心
内弟子	平山	平山郡蔵。通称藤右衛門。タミの兄、平山藤右衛門の孫。
	稲生	伊能秀蔵。忠敬の子。
	永沢	永沢藤次郎。下総国佐原の人。忠敬と同郷。
	小坂	小坂寛平
供侍	佐藤	佐藤伊兵衛。初めは下僕として測量隊に参加したが、後に忠敬の従臣となる。
従者	丈助	忠敬の従者
	半六	忠敬の従者
	総兵衛	惣兵衛。高橋善助の従者
	角二	坂部貞兵衛の従者
	栄治	下河辺政五郎の従者
竿取	利助	
	吉平	
随身	弥右衛門	
	浅五郎	窪田浅五郎。岡山市東区君津出身の岡山藩士。
	丈右衛門	平松紹右衛門。備中国二日市村(倉敷市二日市)の大庄屋

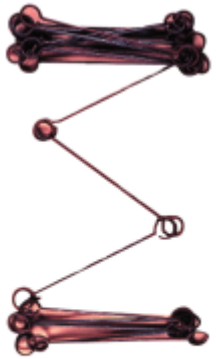
総勢16名（随身3名除く）

伊能隊の測量方法

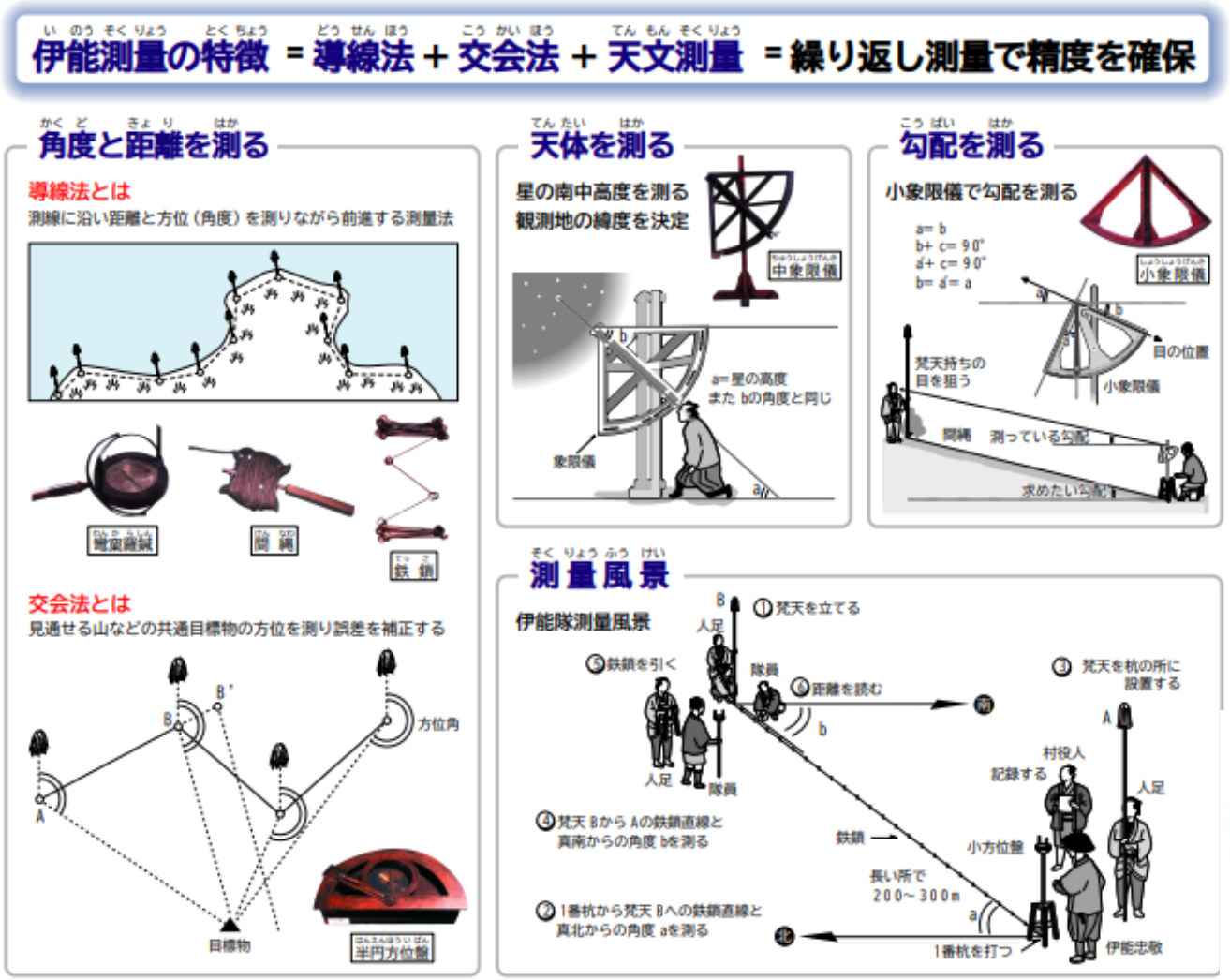
わんからしん
彎窠羅鍼

曲がった海岸線を測量するとき、直線の連続になるように梵天をたて、杭を打ち、測線を設定し、その距離と曲がり角の方位を測りながら進んででゆく。距離は間縄や鉄鎖それに歩測も、方位は小方位盤（彎窠羅針（わんからしん）または杖先磁石ともいう）で測る。

けん なわ
間 縄



てっ さ
鉄 鎖



ちゅうしょうげんき
中象限儀

しょうしょうげんき
小象限儀

はんえんほうい ばん
半円方位盤

測量作業の様子

伊能測量隊まかり通る　渡邊一郎著より

伊能隊の測量風景

浦島測量之図　部分

（呉市阿賀町 宮尾昌弘氏蔵）

賀茂郡阿賀村時代の大正10年(1921)頃、宮尾家の古文書の中から広島高等師範の長沼教授により発見された貴重な絵画の部分である。所蔵者宮尾昌弘氏の先祖宮尾三兵衛は、当時賀茂郡18ケ村の割庄屋を務めており、郡中付き廻り庄屋として測量日記にも名前が出てくる。息子の彦五郎も庄屋として本陣御用を引き受けており、親子２代、伊能測量に深く係わった。そんな御縁で制作されたという。現在　呉市入船山記念館所保管。

巻子本　縦27×横420cm。

折本を巻物に改装したもので、測量関連の風景図、天測風景図、測量器具、日程記録から構成されている。掲載部分は巻初の一部で、親船をつけて伊能隊が上陸し、身辺の持廻品等を荷物船から小船で濱まで運び、待っていた人足に渡したところである。

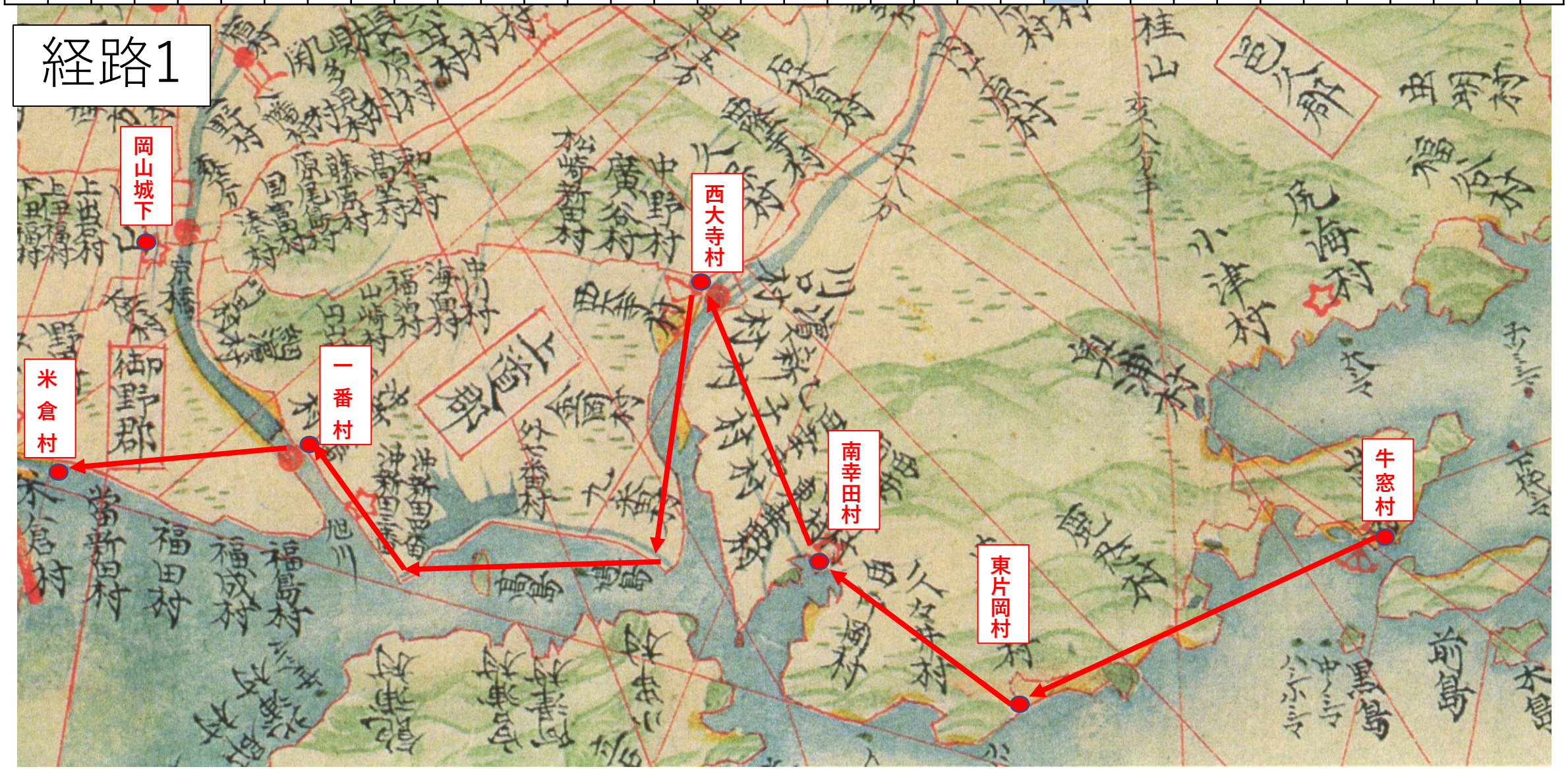
海岸の左側では隊員が刀持ちの従者に指示をしており、傍らに鑓持ちが控える。並んだ人足が持つ品物は種々雑多である。鑓、刀から、茶釜、茶道具、腰掛、敷物、わらじ、荷物包み、など身辺サービス用品が多い。幕府事業としての西国測量では、諸藩はこのように気を使った。

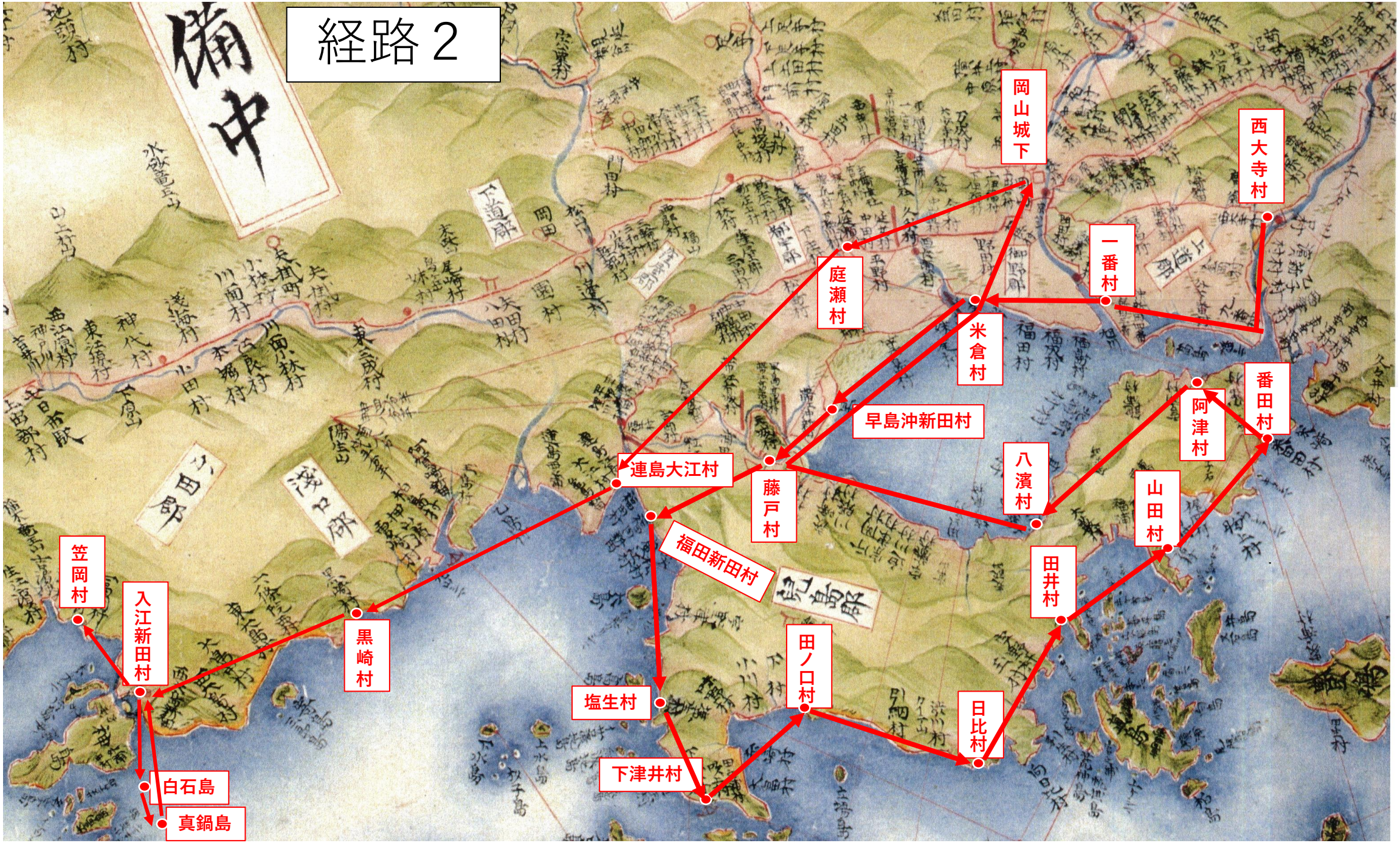
入江の奥では梵天を立て、役人２人が小方位盤を覗き、後ろでは一人が記録している。この中に忠敬がいるとすれば、多分奥の小方位係である。伊能隊は阿賀村に宿泊はしていない。

伊能忠敬の全国測量
伊能忠敬研究会名誉代表渡辺一郎編著

笠岡村 | 入江新田村 | 白石島 | 真鍋島 | 入江新田村 | 黒崎村 | 連島大江村 | 庭瀬町 | 岡山城下 | 彦崎村 | 八浜村 | 阿津村 | 番田村 | 山田村 | 田井村 | 日比村 | 田ノ口村 | 下津井村 | 塩生村 | 福田新田 | 藤戸村 | 早島沖新田村 | 米倉村 | 一番村 | 西大寺村 | 南幸田村 | 東片岡村 | 牛窓村 | 尻見村 | 虫明村 | 片上駅 | 灘田村 | 日生村 | 大多府島 | 日生村 | 宿泊地

経路1




経路２
備中
岡山城下
西大寺村
一番村
庭瀬村
米倉村
早島沖新田村
番田村
阿津村
八濱村
山田村
連島大江村
藤戸村
福田新田村
田井村
笠岡村
入江新田村
黒崎村
田ノ口村
塩生村
日比村
下津井村
白石島
真鍋島

伊能ウォーク西大寺　（平成11(1999)年9月~12月）

地域振興課から指摘
気仙後訂正（3ヶ所）

おかやま街いきいき活動事業助成申込書

（身近な地域づくり活動）

11年8月26日

岡山市長 萩原誠司 様

住所（所在地）
岡山市西大寺中3-24-16

団体名 西大寺文化資料館実行委員会

代表者 青江文次 年令 86才

連絡先（電話番号）
942-4936

事業名	伊能ウォーク 西大寺
応募部門	ソフト事業　ハード事業　事業実施の予定地区 西大寺、山南、上南

テーマ（目的等）
伊能忠敬が巡回作成のため牧夷地に向ったのが1800年（寛政12）であったことを記念し、目下伊能ウォーク（朝日新聞主催）がスタートしたことを機に西大寺地区の海岸を干潮時に歩き、彼の偉業を偲ぶとともに歩行を通じて健康度の向上をはかる。

地域の特性・個性等を活かしたものとなっていますか。

事業の内容
11年 9月20日（月） 東宝伝 ― 正儀 のコース予察
自動車に乗車し（4名）干潮時に、海岸を歩く可能な箇所を予察する　干潮 12:33

10月 19日（火） 干潮 11:42
バス利用（西大寺 ― 東宝伝）
東宝伝 ― 又々井 ― 正儀 ― バス利用）
6Km

11月 3日（文化の日） 干潮 13:31
バス利用（西大寺 ― Xタン）
金岡 ― 九蟠 ― 升田 ― 三蟠（バス利用）
8Km

12月 8日 水門までバス　水門 ― 青江 ― 乙子 ― 西大寺
8Km
潮の関係なし

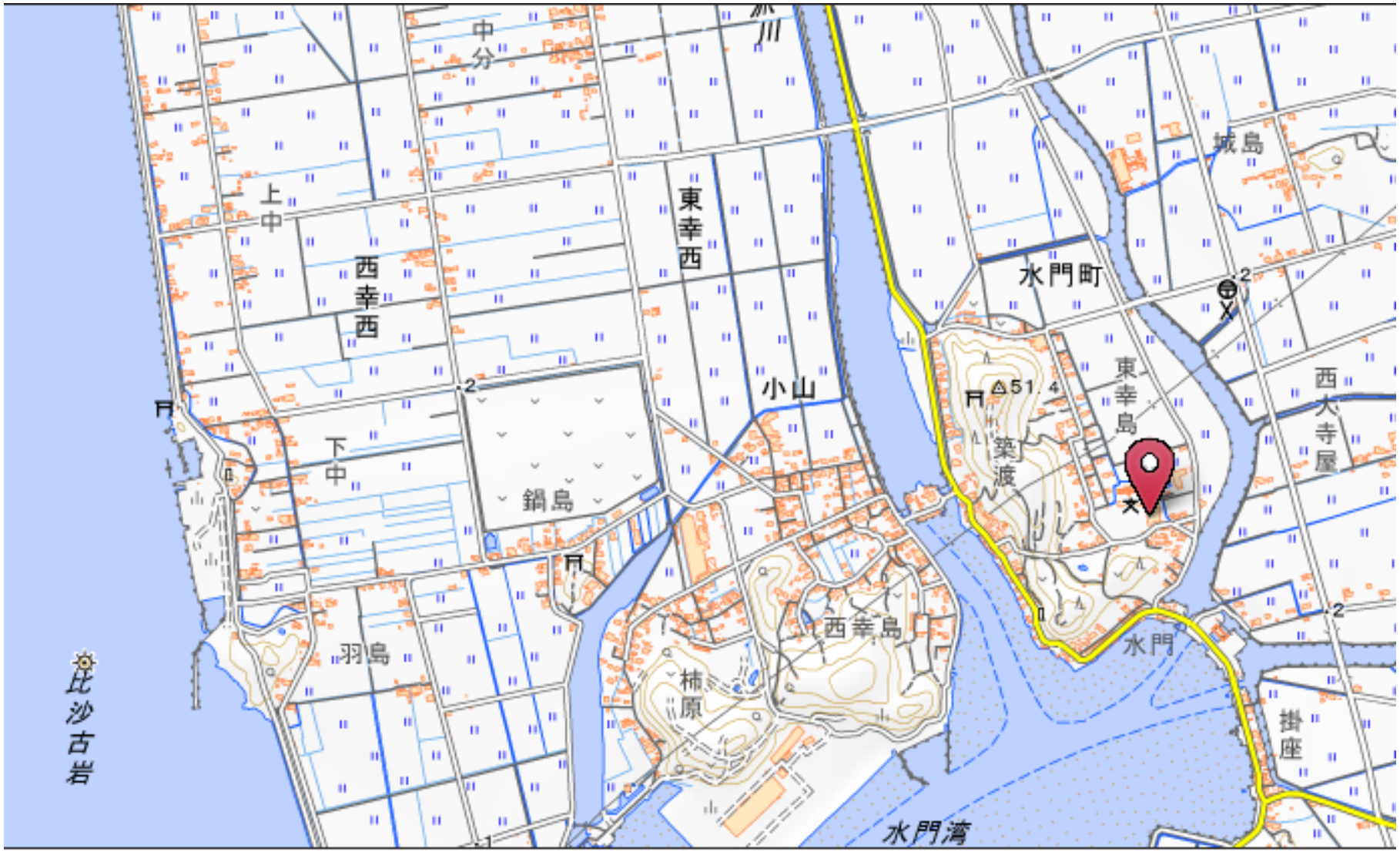
地域住民の理解、参加を得られるものとなっていますか。

牛窓　中崎屋初右衛門

東片岡村字宝伝　伝治郎、嘉三郎、吉治郎

試験的に宿泊地の地図を表示しています。正確な位置ではありません。参考としてご覧ください。

南幸田村　磯屋太平

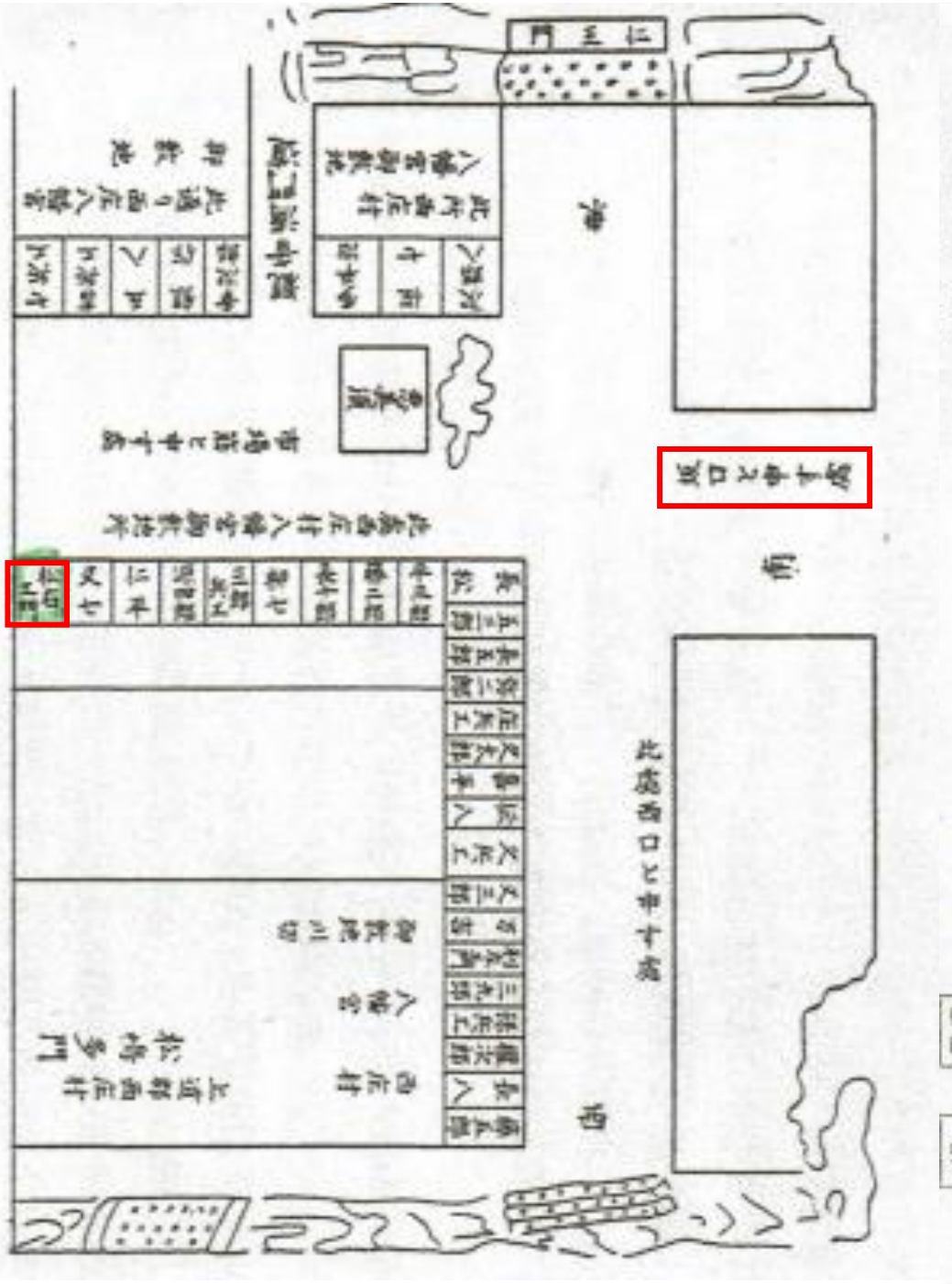

中分
上中
西幸西
東幸西
小山
下中
鍋島
羽島
柿原
西幸島
築渡
△51.4
東幸島
水門町
城島
西大寺屋
水門
掛座
水門湾
比沙古岩

11月14日　止宿
坂口屋松左衛門（掛ノ町）

ア 松
門 右

伊能忠敬測量隊が止宿した坂口屋松左衛門はこの場所だったのでは？

西大寺町誌　P298-299



西荘八幡宮にある西大寺古図に対する
文学博士沼田頼輔の証明文

「余嘗て西大寺の歴史を修めし時、平賀元義の記せる金岡荘考証を読みしが中に、西荘八幡宮の祠官松島氏の家に、西大寺の古図を蔵せることを読み、一度これを見んとせしが、公私の要務に妨げられ、果さざりしが、庚戌（明治四十三年）の秋、適々閑を得て松島氏の家に至り、親しくこれを見ることを得たりき。此の図即ち是なり。

其の年代を詳にせざるも、紙質墨色等より考ふるも、凡二百年前のものたることを知るべし。唯他にこれを傍証するものなきが故に、明かにこの年代を確定することを得ざるを憾みとするのみ。図中記する所、現今の位置と大差なきも、仁王門前、裏門外に当八幡宮の敷地ありしを異なりとするのみ。松島氏の請に応じ、その見る所を記す斯の如し。」

明治四十四年（一九一一）八月十七日

沼田鉄兜

頼田輔印

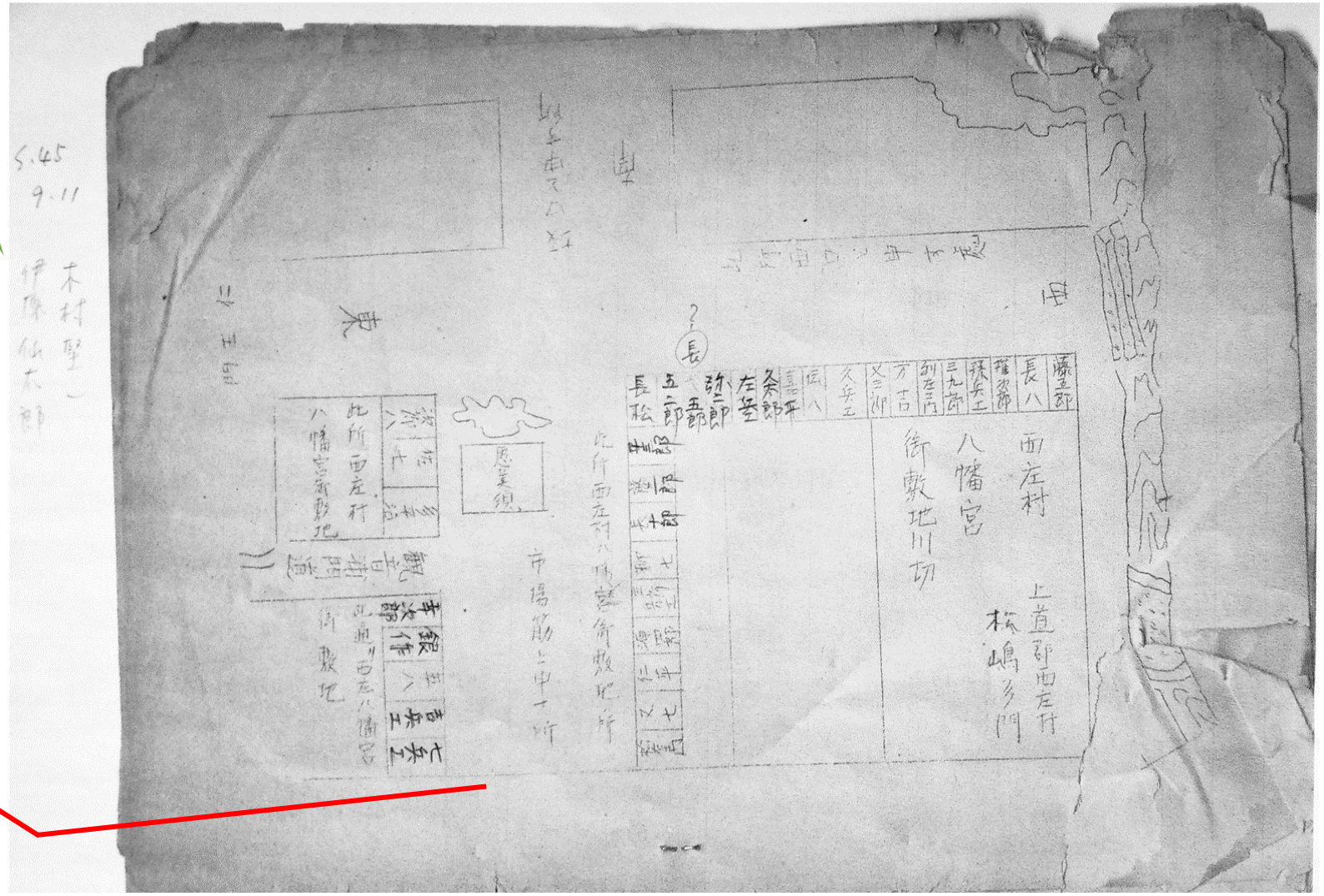
鉄兜

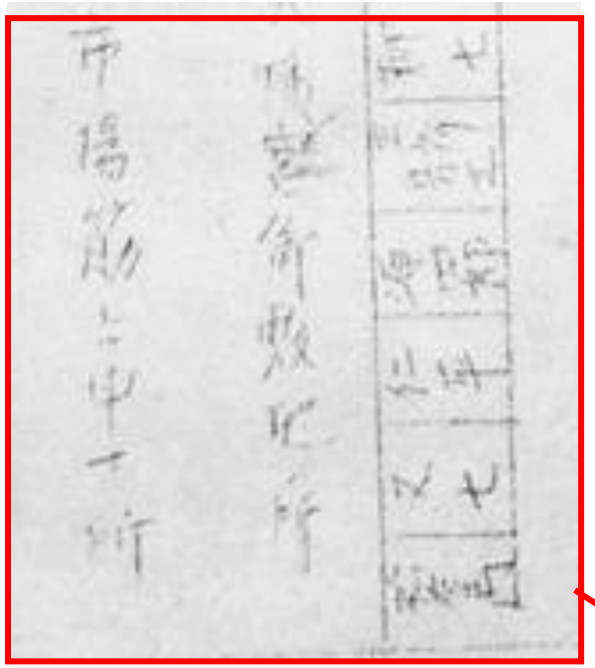
西大寺古地図

S45
9・11

木村堅一
伊原仙太郎

の文字あり





西大寺村　坂口屋松左衛門

測量隊の食事

伊能忠敬　日本列島を測る（後編）

【鎌掛宿の食事】―「御用天文測量方御通行一件」より―
昼飯　**お茶漬**　小皿（たこ、しょうが）御飯
夕食　茶椀（玉子とじ鴨、えび、たい、くわい、栗、木くらげ、百合根）
御汁（青菜つみ入、岩たけ、糸ゆば）
手塩皿（なら漬、花しほ）
炙物（たいの切焼）　御飯
朝食　菓子椀（たい、長芋、大椎茸、せり、吸口糸ゆば）
御汁（すまし、こち、青昆布、糸牛蒡、こせう、椎茸）
手塩皿（奈良漬、花しほ）　炙物（小鯛）
御飯
峠御休み　**切飯**　煮しめ（糸ゆば、小椎茸、氷こんにゃく、にんじん）

文化8年閏2月11日
戸手村の信岡家で用意された昼食を再現

広島県

【6月1・2日の献立】奈古村(阿武町)　「測量方御用意記」(徳山毛利文庫蔵)より

昼　食　梅干　からし　小皿(みそ漬大根)　平皿(あわび・山のいも・椎茸・実山椒・干瓢)　吸物(しじみ)　飯
夕　食　鯛細作り(大根・根いも添え)
中皿(栗・きくらげ・葉生姜・みしおのり・みょうが・きんかん)　小皿(奈良漬瓜・沢庵大根)　壺皿(すまし・銀杏・山のいも・青昆布)　平皿(花かつお・玉子ふわふわ)　汁(根いも・青ささげ・かつお節)
朝　食　中皿(鯛煮付・わらび)　大猪口(ささげ・白胡麻あえ)　小皿(梅干・奈良漬瓜)　平皿(れんこん・玉子・山のいも・牛蒡・椎茸)　汁(貝わり菜・かつお節)　飯
小弁当　握り飯　煮しめ(山のいも・牛蒡・氷こんにゃく・河茸・ぜんまい・焼豆腐)

【6月1・2日の忠敬の食事】奈古村
1日　葛粉切　**1日夕**　小豆粥・茄子油揚げ（醤油だし）
2日朝　牡丹餅

●徳山藩奈古村の献立

第5次測量の文化3年（1805）6月1・2日、徳山毛利藩の飛び地奈古村（阿武町）で供された食事の献立が残されている。左表の通り、山海の食材が豊富に用いられている。持病で療養中の忠敬の食事は、永沢勝次郎が台所へ来て指図をしたというが、精が付くような内容ではなく、忠敬の回復が遅れたのもうなづける。ところが、心尽くしの食事を準備したにもかかわらず、隊員たちの中で好物を別注文する者が現われた。「牡丹餅・鰻蒲焼・黒大豆の煮豆・冷し素麺」などを所望したという。特に平山郡蔵・門倉隼太が「白玉団子・かつお節・山のいも・干瓢入りの雑煮」を、伊能秀蔵が「茄子の太煮」を求めたという。他にも、毎食事に干菓子か生菓子を付け、測量隊3手には重箱に干菓子を入れて出し、下分には昼間から酒を、夜は全員に玉子酒を出したとの記録もある。確かに規律がゆるんでいたとしか言えない。

山口県　徳山毛利藩

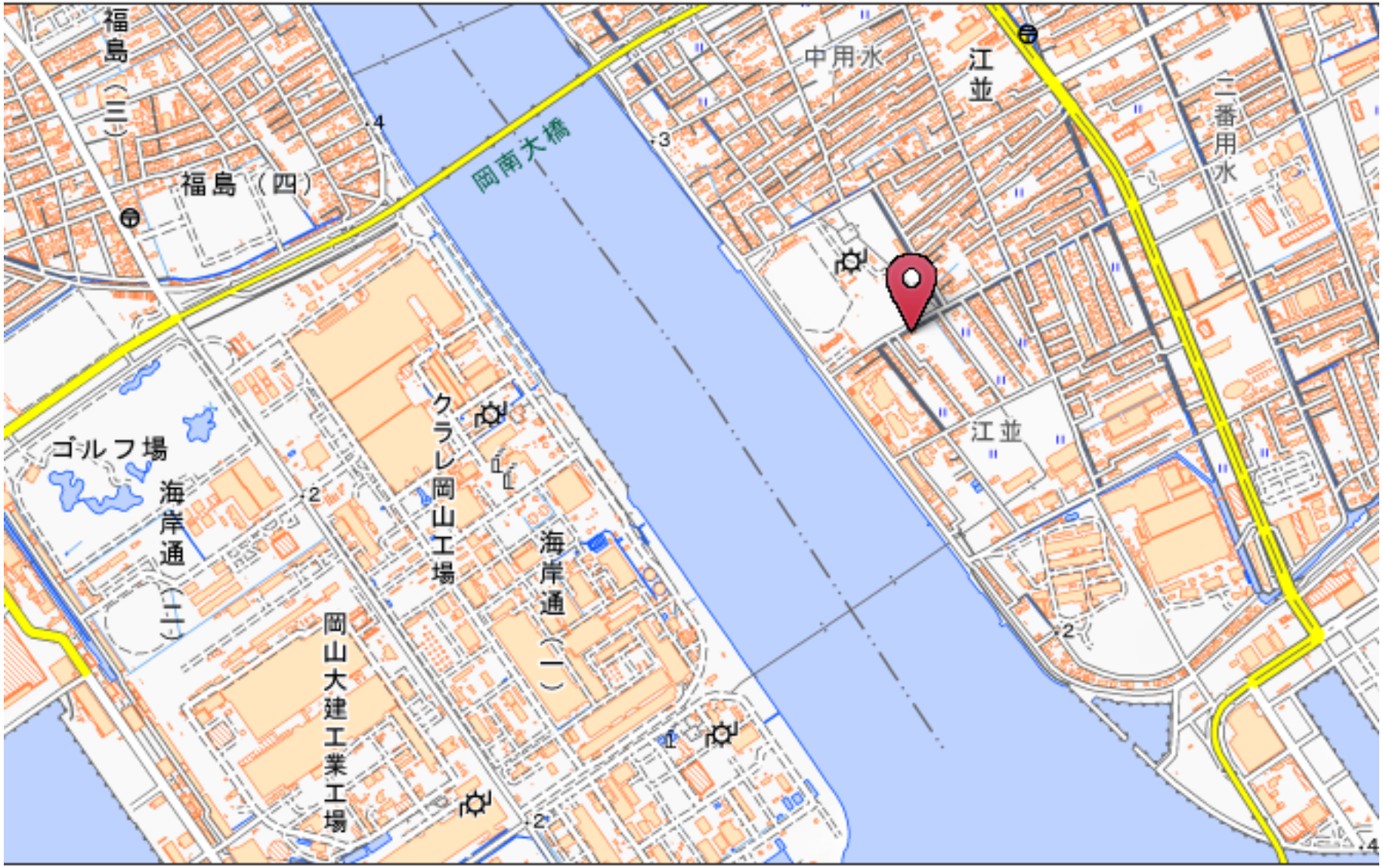
滋賀県

●鎌掛村の献立と測量風景図

第7次測量の往路、文化6年（1809）11月1日、（日野町）の藤屋権右衛門宅に宿泊した伊能隊の様子が記録に残されている。「御用天文測量方御通行一件」によると、藤屋で出された食事には、海老、鯛、たこ等の海産物も含まれており、その入手ルートにも関心が持たれる。測量の様子を

一番村　安太夫

試験的に宿泊地の地図を表示しています。正確な位置ではありません。参考としてご覧ください。



止宿坂口屋松左衛門訪問者

上道郡 大庄屋	浅越村	河合武兵衛
	神崎村	岡崎藤右衛門
	新村	草井六郎右衛門
御野郡 大庄屋		岩藤嘉左衛門
	田中村	長瀬岩太郎

伊能忠敬　第五次測量隊　岡山県内の足跡　日生村～一番村

宿泊日 旧暦	西暦	天気	止宿場所	宿泊宅	天体観測	測量地		天文方			内弟子				供侍	従者					竿取		随身		
							東河	高橋	坂部	下河辺	平山	稲生	永沢	小坂	佐藤	丈助	半六	総兵衛	角二	栄治	利助	吉平	弥右衛門	浅五郎	丈右衛門
文化2年 11月2日	1805年 12月22日	朝　晴	日生村	藤兵衛 本家与左衛門	○	福浦村海辺より寒河村を経て日生村まで海岸を測る		○		○			○	○						○		○			
		夜　晴				福浦村より陸道、日生村まで測り、午後に着	○		○		○	○				○	○		○						
11月3日	12月23日	朝　晴	大多府島	本陣幸吉	○	鹿久居島周七里余測る		○					○	○			○					○			
		夜　晴		脇宿政七		鹿久居島周七里			○		○				○				○						
				脇宿沢五郎		鶴島（周十八町）、鴎島、オツルギ島	○			○		○				○				○						
11月4日	12月24日	朝　晴	日生村	藤兵衛		大多府島と頭島を測る	○			○		○				○				○					
		夜　晴				梔島（クチナシジマ）を測る		○					○	○			○					○			
						曽島と日生村より難田村界まで測る			○		○				○				○						
11月5日	12月25日	朝　晴	難田村	三郎兵衛		梔島（クチナシジマ）を測る	○	○						○			○					○			
		夜　曇				日生村より海岸難田村まで測る						○	○		○		○								
						日生村より難田村まで岡道を測る			○	○	○								○	○					
11月6日	12月26日	朝　曇	片上駅	小国 六郎左衛門	○	難田村より西片上駅まで測る	○	○			○						○					○			
		夜　晴				久々井村より片上駅まで測る			○			○			○	○			○						
						久々井村下より伊部村まで測る				○			○	○						○					
11月7日	12月27日	朝　曇	虫明村	升屋利平治		長島を半周程測る	○		病気		○						○		○						
		夜　曇				片上より海辺を測る		○					○	○								○			
						片上より岡道を虫明村まで測る				○		○								○					
11月8日	12月28日	朝　晴	虫明村	升屋利平治	○	長島前測り残半周を測る	病気		病気		○	○	○			○									
		夜　晴				片上より海岸残り、団島、喜島を測る		○		○				○	○										
11月9日	12月29日	朝　晴	尻海村	高坂屋幸吉	○	虫明村より岡道尻海村まで、大島、弁天島を測る		○				○		○	○	○						○			
		夜　晴				虫明村海岸より尻海村海岸まで測る	○			○	○		○							○					
11月10日	12月30日	朝　曇	牛窓村	中崎屋 初右衛門		尻海村より岡道牛窓湊まで測る		○				○	○		○	○						○			
						尻海村より海岸牛窓湊まで測る	○			○	○			○						○					
11月11日	12月31日	朝　曇	牛窓村	中崎屋 初右衛門	○	前島を測る		○			○	○				○						○			
		夜　晴				黒嶋、中ノ小島、、端ノ小島、本島、大島を測る											○			○					
11月12日	1806年 1月1日	朝　曇	東片岡村	伝次郎	○	牛窓村から海岸沿いに東片岡村まで測る	○	○					○		○										
				嘉三郎		牛窓村から岡を東片岡村まで測る				○		○		○											
		夜雨のち曇		吉治郎																					
11月13日	1月2日	朝　晴	南幸田村	磯屋太平	○	沖鞍地島、犬島、竹子島、沖竹子島を測る	○			○			○	○			○			○					
		夜　晴				東片岡村より南幸田村へ		○				○			○	○						○			
11月14日	1月3日	朝　晴	西大寺村	坂口屋 松左衛門	○	乙子村より西大寺村迄鎖にて測る		○					○						○			病			
		夜晴（大西風）				南幸田村より乙子村まで測る				○		○		○		○				○					
11月15日	1月4日	朝　曇	一番村	安太夫	○	九番村より初、一番村まで測る		○		○		○			○	○				○		病			
		（雪）夜晴				西大寺村より九番村まで測る	○		○				○	○			○		○						

伊能忠敬　第五次測量隊　岡山県内の足跡　　米倉村～岡山城下

宿泊日 旧暦	西暦	天気	止宿場所	宿泊宅	天体観測	測量地	天文方 東河	高橋	坂部	下河辺	内弟子 平山	稲生	永沢	小坂	供侍 佐藤	従者 丈助	半六	総兵衛	角二	栄治	竿取 利助	吉平	随身 弥右衛門	浅五郎	丈右衛門
11月16日	1月5日	朝　晴 夜　晴	米倉村	和右衛門	恒星測定	平井村入口より岡山城下を測る		病	○		○		○		○							病			
						一番村より平井村入口、福島村より米倉村まで測る	○			○		○		○											
11月17日	1月6日	朝　晴 夜　晴	早島沖新田村	片山貞蔵	恒星測定	米倉村より瀬尾村まで測る	○			○	○			○		○				○					
						箕島界より早島庄沖新田村まで測る			○			○	○		○		○		○						
11月18日	1月7日	朝　晴 夜　晴	藤戸村	補陀落山藤戸寺	恒星測定	早島沖新田村より児島郡藤戸村まで測る	○				○		○	○		○	○				○				
						天城村御茶屋鼻より乗船彦崎村、藤戸村を測る			○	○		○							○	○					
11月19日	1月8日	朝　曇 夜　曇	福田新田	三村屋彦五郎	不測	備中窪谷郡吉岡村より初、福田新田まで測る			○			○	○			○			○						
						天城村より初、吉岡村まで測る	○	○			○			○			○				○				
11月20日	1月9日	朝　晴 夜曇小雨	塩生村	十四郎	不測	福田新田村堤より初、呼松村、大島まで測る	○	○		○	○		○												
						呼松村より塩生村、高島まで測る			○			○		○											
11月21日	1月10日	朝　晴西風 夜　大風晴天	下津井村	福島屋和助	恒星測定	上水島を測る	○							○		○	○								
						桂島、太濃地島、細濃地島、イザロ濃地島を測る		○	○				○						○						
						塩生村より海辺下津井村まで測る				○	○	○								○	○				
11月22日	1月11日	朝　晴 夜　晴	下津井村	福島屋和助	恒星測定	下津井村海辺、燈明堂へ登、山島を測、吹上村、田ノ浦村を測る	○				○			○			○				○				
						釜島を測る		○					○			○									
						六口島を測る			○	○		○							○	○					
11月23日	1月12日	朝　晴 夜　晴	田ノ口村	岡崎屋陸治郎	恒星測定	田ノ口村より初、味野村まで測る			○			○				○			○						
						味野村、小川村界より初、田ノ口村まで測る	○	○			○			○			○				○				
						上濃地島、タテバ島を測る				○			○							○					
11月24日	1月13日	朝　晴 夜　記載無	日比村	記載無	記載無	田ノ口村字小田口より初、渋川村まで測る	○		○				○			休			○						
						渋川村より向日比村まで測る		○			○			○							○				
						向日比村より利生村まで測る				○		○			○					○					
11月25日	1月14日	朝　曇又晴 夜　雨	田井村	利四郎	不測	利生村より田井村まで測る			○			○	○						○						
						日比村地内を測る		○		○				○	○					○					
						宇野村持野小島を測る	○				○										○				
11月26日	1月15日	朝　大風 夜　大曇微雨	山田村	平五郎	不測	田井村より後閑村、沼村のうち大藤の岬より山田村まで測る	風		風	○	○		○		○	病				○	○	病			
						後閑村より沼村大藤の岬まで測る	邪	○	邪			○		○		気			○			気			
11月27日	1月16日	朝　晴 夜　曇	番田村	紋次郎	不測	胸上村より番田村まで測る		○				○			○	○									
						山田村より胸上村まで測る				○	○		○							○	○				
						山田村より直に胸上村へ、立石山に登り山島を測る	○							○											
11月28日	1月17日	朝　曇 夜　曇又雨	阿津村	弥惣次	不測	小串村より阿津村まで測る		○				○	○								○				
						番田村外より小串村まで測る				○				○	○					○					
						立石山に登り山島を画す					○					○									
11月29日	1月18日	朝　晴 夜　記載無	八浜村	養泉寺	記載無	郡村より八浜村まで				○		○		○						○					
						阿津村より郡村まで		○			○		○								○				
						高島	○								○	○									
11月30日	1月19日	朝　曇 夜　記載無	彦崎村	源之助		大崎村天神下より彦崎村まで		○		○		○			○	○				○					
						児島群周回	○				○		○	○			○				○				

伊能忠敬　第五次測量隊　岡山県内の足跡

岡山城下～笠岡村

宿泊日 旧暦	西暦	天気	止宿場所	宿泊宅	天体観測	測量地	天文方				内弟子				供侍	従者					竿取		随身		
							東河	高橋	坂部	下河辺	平山	稲生	永沢	小坂	佐藤	丈助	半六	総兵衛	角二	栄治	利助	吉平	弥右衛門	浅五郎	丈右衛門
1月17日	3月6日		岡山城下	福岡屋吉郎兵衛		朝曇晴。測器を磨き荷物を仕舞う。大阪、間氏より来状。即、返書を認め、暦局行の書状を封じ込み、大坂、間清市郎へ遣す。																			
1月18日	3月7日	朝　晴 夜　大曇天	庭瀬町	今保屋善右衛門	不測	庭瀬町より松島村まで測る。備中、備前国吉備津宮へ参詣	○		○			○		○		○			○						
						岡山下之町止宿前より初、庭瀬町まで測る。		○		○	○									○		○			
1月19日	3月8日	朝　曇 夜　晴	連島　大江村	大庄屋格仙右衛門	恒星測定	沖村前より連島大江村止宿迄測る。仕越、亀島新田迄測る。		○				○		○											
						庭瀬止宿前より沖村まで測る。	○		○	○	○					○	○		○	○					
1月20日	3月9日	朝　晴	黒崎村	名主礼蔵		乙島村養父母岬より初、玉島村、赤島村、柏島村等を測	○		○					○	○								○	○	○
						亀島新田地内より初、西浦村上成村を経て乙島村の岬を測		○		○		○													
						下水島を測					○														
1月21日	3月10日		入江新田村	名主新兵衛		東大島村地内より初、入江新田まで		○		○		○						○		○					
						黒崎村地内より大島村地内まで			○		○		○						○			○			
						寄島、三郎島	○							○		○	○								
1月22日	3月11日	朝　晴	真鍋村　本浦	名主伝右衛門		乗船、真鍋島の属、大島、元小島を測	○				○			○		○	○								
						真鍋島周囲を測			○			○							○						
						六島を測		○		○					○			○		○		○			
1月23日	3月12日		白石島			三番と手分にて、北木島を測	○		○	○									○	○					
						大飛島、小飛島を測					○			○								○			○
						トイ島、北木島を測		○							○	○		○						○	
1月24日	3月13日		白石島		測量なし	揖小島、北木島の残りを測る	○							○	○		○					○			
						白石島の周囲を測る		○	○		○					○		○	○						
						高島、小高島を測（アマキ島、高砂島、カナリ島遠測）				○		○												○	
1月25日	3月14日	朝　曇	入江新田村	名主新兵衛		神の島を三番と手分けにて測。輿与神社前より初	○		○			○					○		○			○			○
						メウジ島、稲積島、指出嶋を測、大殿洲島、小殿洲島を測				○	○									○				○	
						輿与神社前より手分け、一番と神ノ嶋字汁方にて合測		○						○	○	○									
1月26日	3月15日	朝　雨	入江新田村			逗留、備中國窪谷郡水江村岡本助之丞、古松軒より					病気														
						添言の由にて測量随身を願う。辞して帰す。																			
1月27日	3月16日	朝　晴	笠岡村	西本願寺末淨心寺		片島、木ノ小嶋	○		○	○						○			○	○					
						入江新田より笠間まで						○		○								○			○
						備後備中国界、茂平村より逆測、笠岡へ向い測		○	○						○	○		○						○	

伊能忠敬の岡山県下訪問（2）
第七次測量

文化6年（1809）8月27日に江戸出発。王子から岩槻までの御成街道の測量から開始する。熊谷、高崎、松井田、諏訪、木曽福島を経て10月17日に岐阜の加納に至る。近江・小篠原で第五次の測量杭と繋いだ。

武佐より東海道と中山道を結ぶ御代参街道を土山まで測り、その後は測量を行わずに11月5日に淀に到着。淀より山崎街道を西進、西宮から山陽道に入り、豊前・小倉で越年。

小倉に14日滞在したのち九州測量開始。中津、杵築、大分、臼杵、鳩浦（津久見市）と進むが、海岸線が複雑で日向の延岡に着いたのは文化7年（1809）4月6目だった。

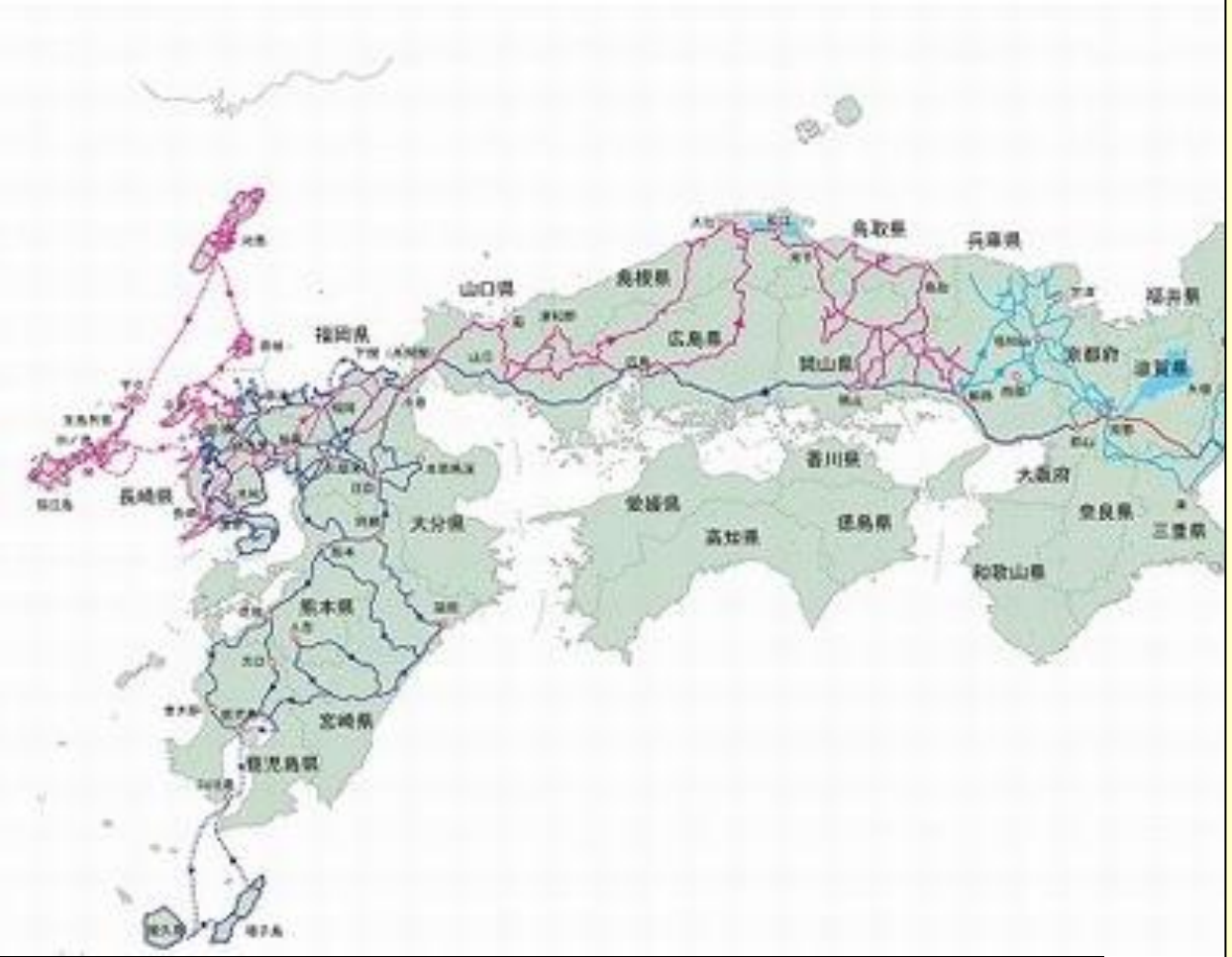
佐土原、日商、都城、都井岬、内之浦から、大隅半島を鹿屋経由で横断し、西岸に出る。南下し、半島を一周して6月23日、鹿児島に着く。薩摩半島を南下、山川湊から屋久島、種子島に渡る予定だったが、風が悪いので枕崎方面に向かう。

薩摩半島を測量ののち串木野で手分けし、海岸線と街道筋を測って肥後に入る。ここで屋久島、種子島測量を断念し、天草を測ったのち大分に12月28日に到着、越年。翌1月4日大分発、中国、近畿、中部地方の主要街道を手分けして測量し文化8年（1810）5月9日、江戸帰着。

文化8年閏2月17日～3月1日	宿泊地	畑木村	下神代村	新見町	松山城下	宍粟村	井尻野村	上足守町	金川村	岡山城下	片上駅

文化6年 11月19～27日	宿泊地	三石宿	西片上宿	藤井宿	岡山城下	板倉宿	川辺駅	矢掛駅	七日市駅

伊能忠敬の岡山県下訪問（3）
第八次測量



土居村	檜原上村	勝間田村	津山城下	周匝町	和気町	坂根村	西大寺村	岡山城下	牟佐村	町苅田村	平山村	周匝町	大戸下村	津山城下	日本原	馬桑村	宿泊地

文化8年（1811）11月25日江戸出立。品川には娘の妙薫、長男の嫁リテをはじめ親類縁者、暦局の関係者、そして間宮林蔵などが見送りに出た。この旅を前に忠敬は、家政や事業についての教訓と隠居資産約1100両の分配方法を記した「遺言状」ともとれる書状を長子景敬あてに書き残している。万一の場合も考えての出発だった。

藤沢から御殿場に出、富士周辺の街道を測量したのち、測量を行わずに裏海道、山陽道を経て、文化9年（1812）1月25日、小倉に着く。小倉からは手分け測量で北九州の内陸部を南下、忠敬組は大口から、坂部組は串木野方面から鹿児島に入る。

山川湊から3月27日屋久島に渡る。続いて4月26日に種子島に移って測量し、5月23日に鹿児島に帰る。北上して九州内陸部を縦横に測り、小倉に出る。北海岸沿いに博多、唐津、伊万里から佐賀、久留米と回る。続いて有明海岸を西に進み鹿島、諫早から島原半島を一周して大村へ。大村湾を手分けして測り、佐世保で越年。

周辺の島々を測量して平戸へ。平戸島と松浦地方、近隣の福島、大島、鷹島、生月島などを測って、3月13日壱岐に渡る。15日間測量したのち対馬へ渡り、53日間対馬全域を測る。平戸に戻り、5月23日、五島列島に渡り北端の宇久島から測りはじめる。

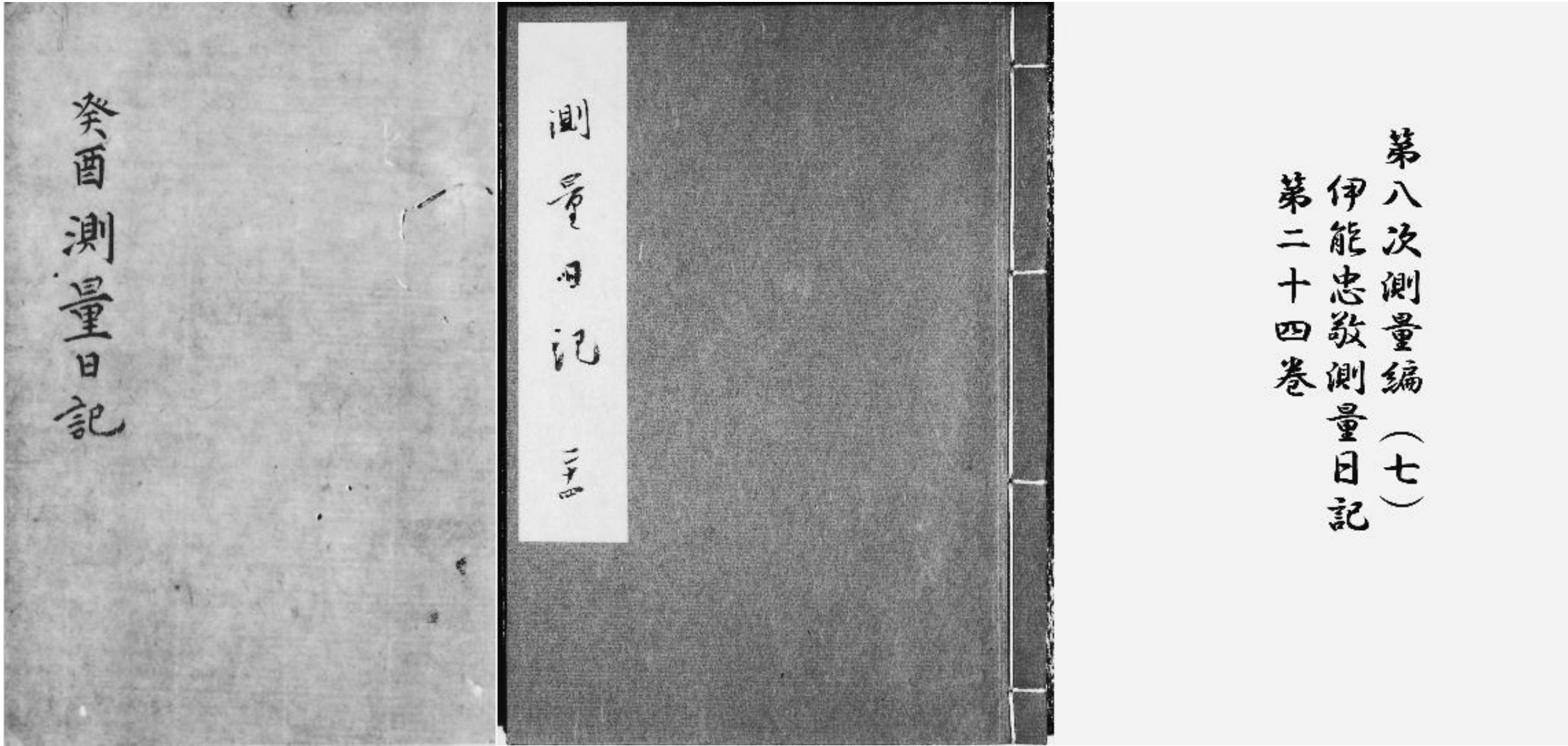
五島列島の測量には7月30日まで66日かかった。信頼していた副隊長の坂部貞兵衛が福江島で病死。忠敬は悲嘆に暮れる。

8月15日長崎着。長崎半島を一周したのち別路を測って10月11日小倉に着く。赤間関（下関）からは、中国地方の内陸部を縦横に測量しながら帰府の途についた。広島、松江、米子、鳥取、津山、岡山と回り、姫路城下で越年する。

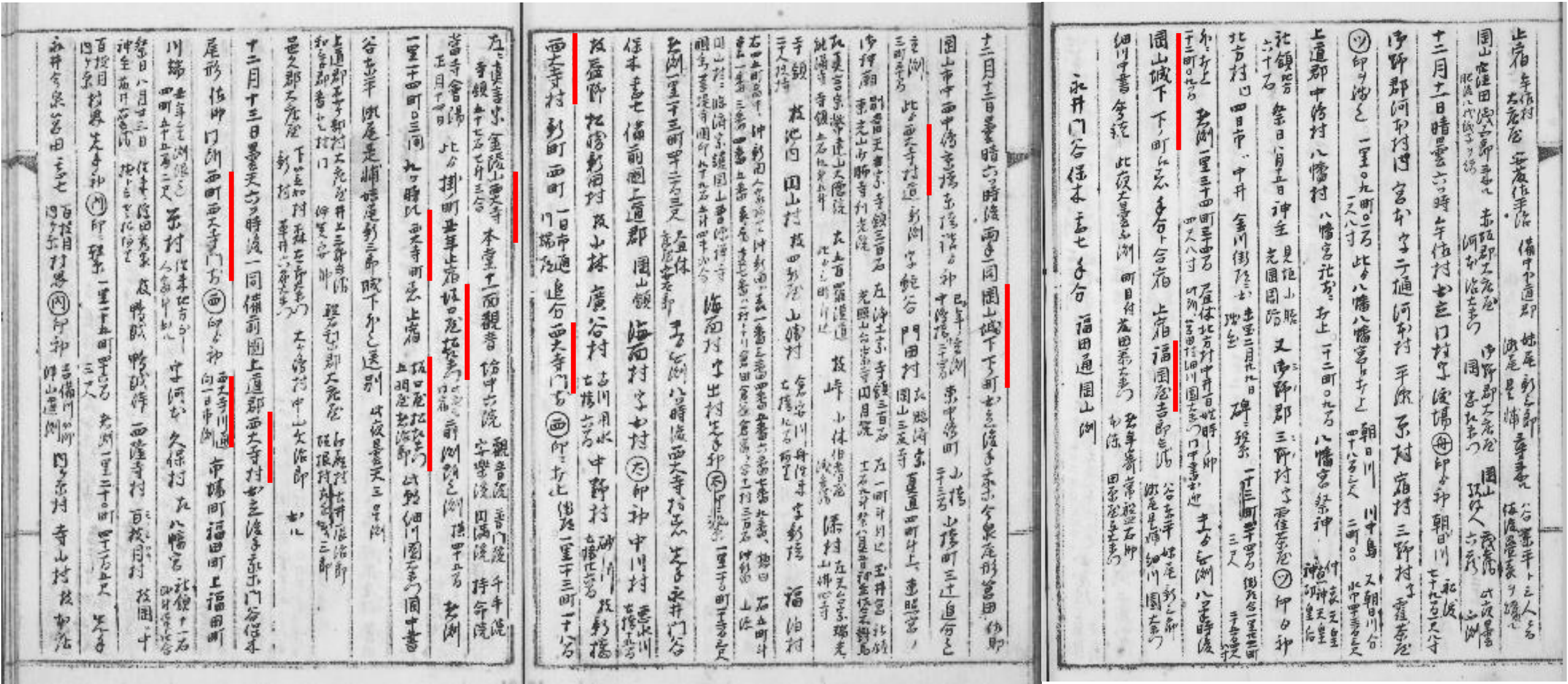
文化11年（1814）は姫路から北上、西脇、生野、福知山、宮津を経て2月26日、京都へ。東海道を四日市まで行き、北上して岐阜、大垣、下呂から高山に出て、古川から反転、4月20日野麦峠を越えて木曽谷に入る。

薮原、洗馬から松本に出て善光寺に参拝。さらに飯山城下まで進んでから南下して、須坂、松代、追分、富岡、大宮、川越を経て5月23日、板橋宿に帰着した。旅行日数は914日に及び、伊能隊最長の測量旅行となった。

伊能忠敬の西大寺訪問（2）第八次測量



伊能忠敬測量日記第二十四巻
第八次測量　文化十年十二月十二日－十三日



伊能忠敬の西大寺訪問（2）第八次測量(1)

文化十年十二月十一日
八ツ半後岡山城下下ノ町へ着。止宿福岡屋吉郎兵衛
文化十年十二月十二日
曇晴、六ツ時後両手一同岡山城下下ノ町出立、
後手我等、今泉、尾形、箱田、佐助、岡山市中西中島、京橋、東橋詰ヨリ初、(巳年ノ重測、中嶋橋巾二十四間)、東中嶋町小橋二十三間、小橋町三辻追分迄重測三町三十間。是ヨリ西大寺村道新測、字蛇谷、門田村、左臨済宗岡山三友寺、真直四町計上二東照宮ノ御神廟、(別当天台宗東光山少林寺利光院、寺領三百石)、左(浄土宗光照山台崇寺円月院、寺領三百石)、左一町計引込、(玉井宮社領十一石九斗、祭八月二十五日神主佐々木対馬)、左(真言宗幣達山大徳院能満寺、寺領五石九斗五升)、左(五百羅漢道、此ヨリ三町引込)、枝峠小休伯耆屋儀兵衛、湊村(左天台宗瑞光山仏心寺、寺領二十人扶持)、枝池ノ内円山村、枝四軒屋、山崎村、倉安川土橋九間、(舟往来あり)、字新橋、福泊村、右四五町畠中二沖新田人家あり、沖新田八表一番・三番・四番・五番・六番・七番・九番、惣日右五町計、裏一番・三番・四番・五番、表二属、裏七番八一村となり、倉田・倉益・倉富ヲ合、十一村、三万石、沖新田、山添、円山村二臨済宗護国山曹源禅寺、国主ノ菩提寺国印九十九石五斗四升弐合、海面村、字出村、先手初**太印**二繋、(一里十町十二間三尺、惣測一里十三町四十二間三尺)、昼休庄屋安太郎、それヨリ無測、八ツ時後、西大寺村着、
先手永井・門谷・保木・甚七、備前国上道郡岡山領海面村字出村、**太印**初、中川村悪水川土橋十五間、枝益野、松崎新田村、枝小林、広谷村古川用水土橋六間、中野村砂川土橋廿六間、枝新橋、西大寺村、新町・西町・(一日市通・川端道)追分、西大寺門前**西印**二打止、(街道一里十三町十八間)、左二真言宗金陵山西大寺、寺領五十七石七升三合、本堂十一面観音、坊中六院、(観音院・安楽院・普門院・円満院・千手院・持命院)、当寺会陽正月十四日、此ヨリ掛ノ町、丑年止宿、坂口屋松左衛門、(此度も同宿)、前測所迄測、横四十五間、惣測一里十四町三間、九ツ時頃、西大寺町着、止宿坂口屋松左衛門・五明屋惣治郎、此朝、細川園右衛門・同中書・谷東平・瀬尾是輔・妹尾新三郎、坂下外迄送別、此夜曇天三星測、上道郡草ケ部村大庄屋井上三郎兵衛・和気郡香登村、同伊賀安助・磐梨郡大庄屋(江尻村土井辰治郎・坂根村左近義三郎・邑久郡大庄屋、下笠加村森太郎右衛門・新村草井六郎右衛門)、大ケ島村、中山文治郎出ル

伊能忠敬の西大寺訪問（2）第八次測量(2)

文化十年十二月十三日

曇天、六ッ時後一同備前国上道郡西大寺村出立、後手我等、門谷、保木、尾形、佐助、同所西町西大寺門前西印ヨリ初、（西大寺川通、向一日市測）、市場町、福田町、上福田町、川端、（丑年重測限迄四町五十五間二尺）、原村、（往来地方なし、人家計出ル）、字河本、久保村、左八幡宮、（社領十一石弐斗四升四合、祭日八月廿三日、神主藤井右兵衛）、往来ニ浮田秀家植ト云老松あり、枝鴨越、鴨越峠、西隆寺村、百枝月村、枝岡、同中、（百枝月、内ヶ原）村界、先手初内印ニ繋（一里十五町四十六間三尺、惣測一里二十町四十一間五尺）、

先手永井、今泉、箱田、甚七、（百枝月、内ヶ原）村界内印初、（吉備川筋、津山道測）、内ヶ原村、寺山村枝本庄、（右吉備川向八町計ニ邑久郡福岡村殿屋敷ト云あり、往古黒田筑前守居所、その後筑前ニ城ヲ築故、筑前城下ヲ福岡ト云ト）、西祖村、一日市村、長崎街道江出迄イ二十五町四十五間。是ヨリ巳年重測、一日市村、（長崎街道馬立場）、左本陣難波勇吉前吉井村街道渡場追分迄イ重測七町三十九間、井印ヲ残、石津宮江打上、社前迄ロ二町三十九間、石津宮、祭神連祖野見宿称、祭日八月廿五日、鎮座年号不知、黒田家建立ト云、黒田弥九郎寄進元亀年中ノ神輿三、黒田左衛門佐寄進絵馬一牧、黒田家寄進ノ鎧拝殿ニアリ、浮田直家ノ下知状一通同人ヨリ寄附、八十六石ありし所金吾中納言秀秋ヨリ減シテ社領十石トス、それヨリ以後十石宛、境内に嵯峨天皇腰掛石アリ、石津宮へ行幸ノトキノヨシ、神主岡井越前、又井印初、倉安川、水門巾四間、磐梨郡大内村、左二古城跡、城主不知、和気郡坂根村枝宇治、津山道渡場打止坂印ヲ残（イ二十四町五十四間）、比ヨリ測所打上、吉備川水渡巾、舟渡七十五間、止宿前測所ニ打止（ロ四町三十九間）、街道イ合一里　二十二町十八間、（内重測有）、横ロ合七町十八間、惣測一里二十九町三十六間、先手ハ九ッ時、後手ハ九ッ半時、坂根村着、止宿庄屋三郎右衛門、百姓吉右衛門、百姓庄治郎、同源五郎。

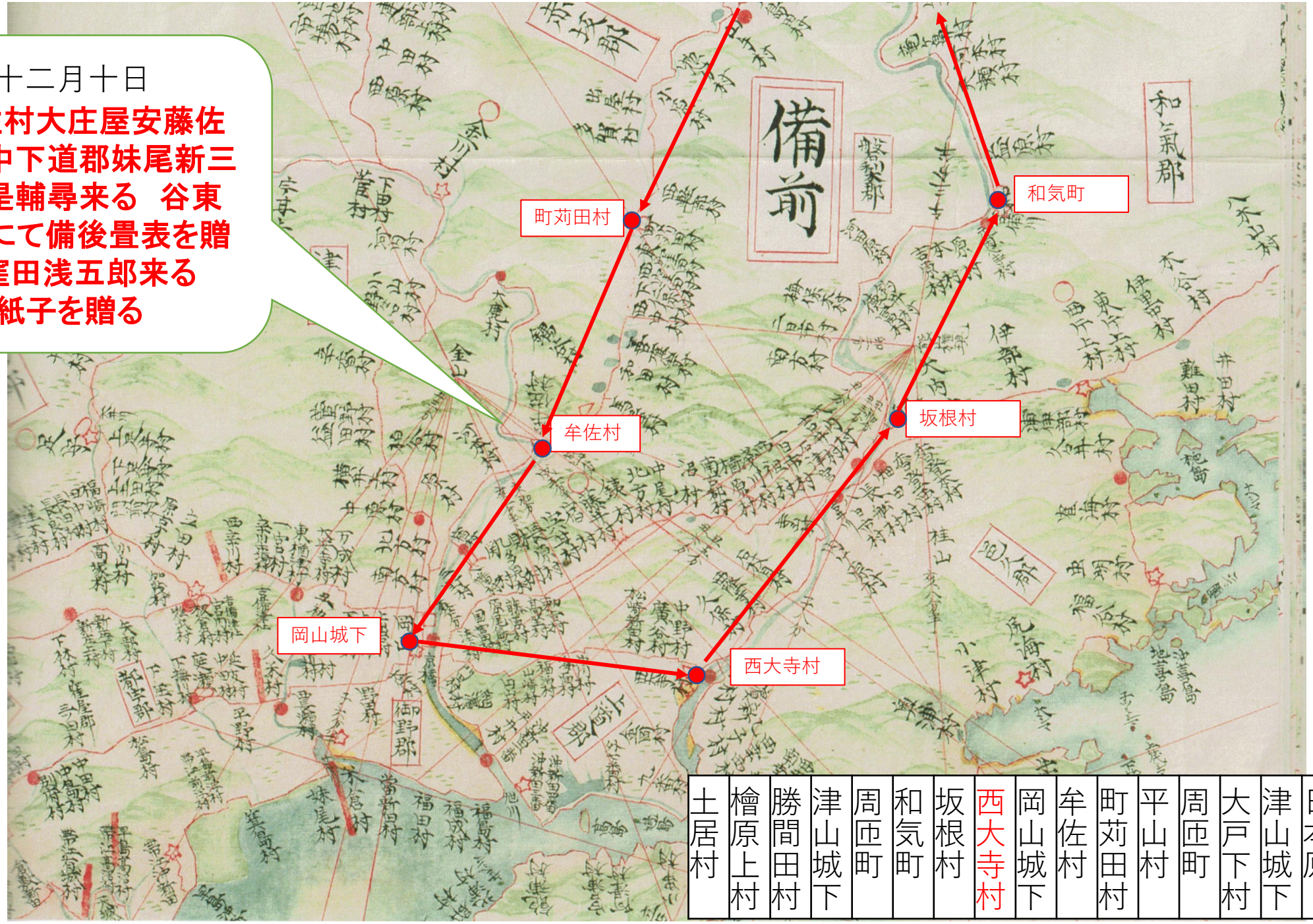
１３名

第八次測量隊員

				従者	
後手	我等	伊能忠敬	隊長	清兵衛	供侍　加藤嘉平太　宮野善蔵
	今泉	今泉又兵衛	天文方下役	新八	高橋景保の手附下役
	尾形	尾形慶助	内弟子		会田安明の実子。のちに御家人渡辺氏を継いで渡辺慎（啓次郎）となる
	箱田	箱田良助	内弟子		備後国箱田村の庄屋細川園右衛門の二男
	佐助	久保木佐助	竿取り		
先手	永井	永井甚左衛門	天文方下役	友吉	大御番小笠原備後守同心。高橋景保の手附下役
	門谷	門谷清次郎	天文方下役	弥兵衛	幕府の同心組頭門谷八郎右衛門の子
	保木	保木敬蔵	内弟子		忠敬の内弟子
	甚七	大山甚七	竿取り		

文化十年十二月十日

止宿牟佐村大庄屋安藤佐平治　備中下道郡妹尾新三郎　瀬尾是輔尋来る　谷東平と三人にて備後畳表を贈る　岡山窪田浅五郎来る　肥後八代紙子を贈る



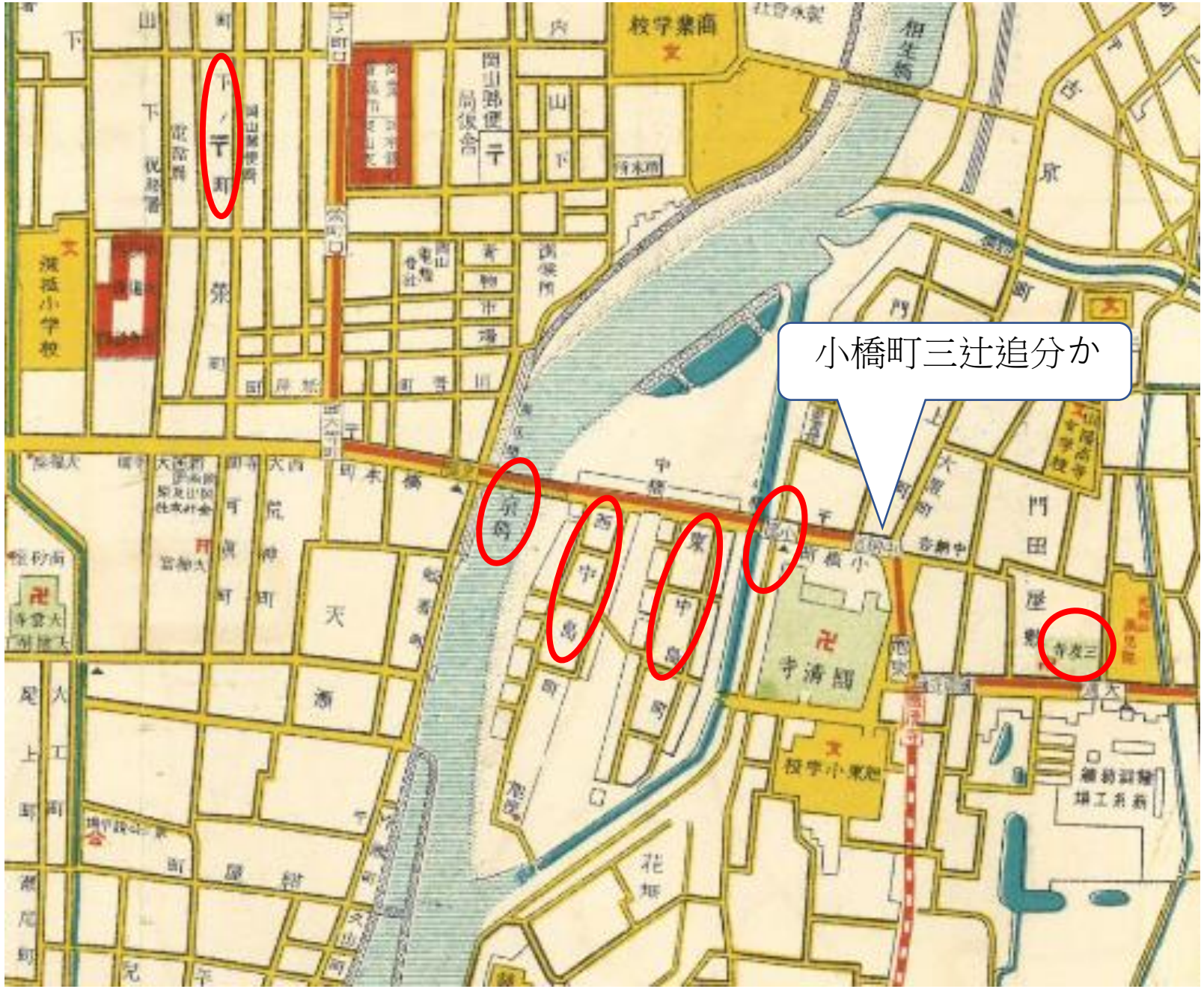
土居村	檜原上村	勝間田村	津山城下	周匝町	和気町	坂根村	西大寺村	岡山城下	牟佐村	町苅田村	平山村	周匝町	大戸下村	津山城下	日本原	馬桑村	宿泊地

文化十二年(1815)十二月十一日
八ツ半時(午後四時)後岡山城下下之町へ着　手分と合宿　止宿福岡屋吉郎兵衛
十二月十二日　曇晴　六ツ時後(午前七時)両手一同岡山城下下之町出立

宇喜多氏が城下町建設のため、備前福岡(現、瀬戸内市長船町)の商人を呼び寄せたのが町の始まりといわれています。古くは恵比寿(えびす)町と呼ばれていたようですが、のち福岡下之町、ついで下之町と変わりました。
宇喜多氏の招きに応じた商家に、小西行長が一時養子にきていたことがあり、のち大名となり摂津守を名乗ったので、屋敷跡は摂津屋敷と呼ばれ、**現在の天満屋の前あたり**といわれています。
江戸時代は町の中央を山陽道が南北に通っており、本陣がありました。大名や幕府・諸藩の使者などが泊まる宿を本陣といい、岡山市内には栄町・下之町・西大寺町にありました。
下之町本陣は内倉屋・田原屋・白銀屋・野村屋と変り、**寛政元年(1789)から福岡屋吉郎兵衛が勤めました**。福岡屋は江戸幕府と大坂町奉行・長崎町奉行との間の公用連絡文書の世話をする送状請込役もしていました。
また鉄砲の火薬を造る煙硝屋がありました。貞享(1684～1687)の頃、西川筋にあった作業場が焼失し、けが人もでたため、御野郡大供村に店とともに移されたと伝えられています。
オランダの医師シーボルトの娘・楠本イネ(オランダおいね)も弘化・嘉永(1844～1854)の頃、医者を開業していた蘭学者の石井宗謙について産科を勉強するため、一時住んだといわれています。
下之町は嘉永7年(1854)の資料によれば、戸数145戸・人口444人(男234人・女210人)とされています。
昭和45年（1970）には住居表示事業の実施により、表町二丁目と変わりました。現在も「下之町」の名は、商店街の名として残っています。

岡山城下町探訪(地名由来碑)

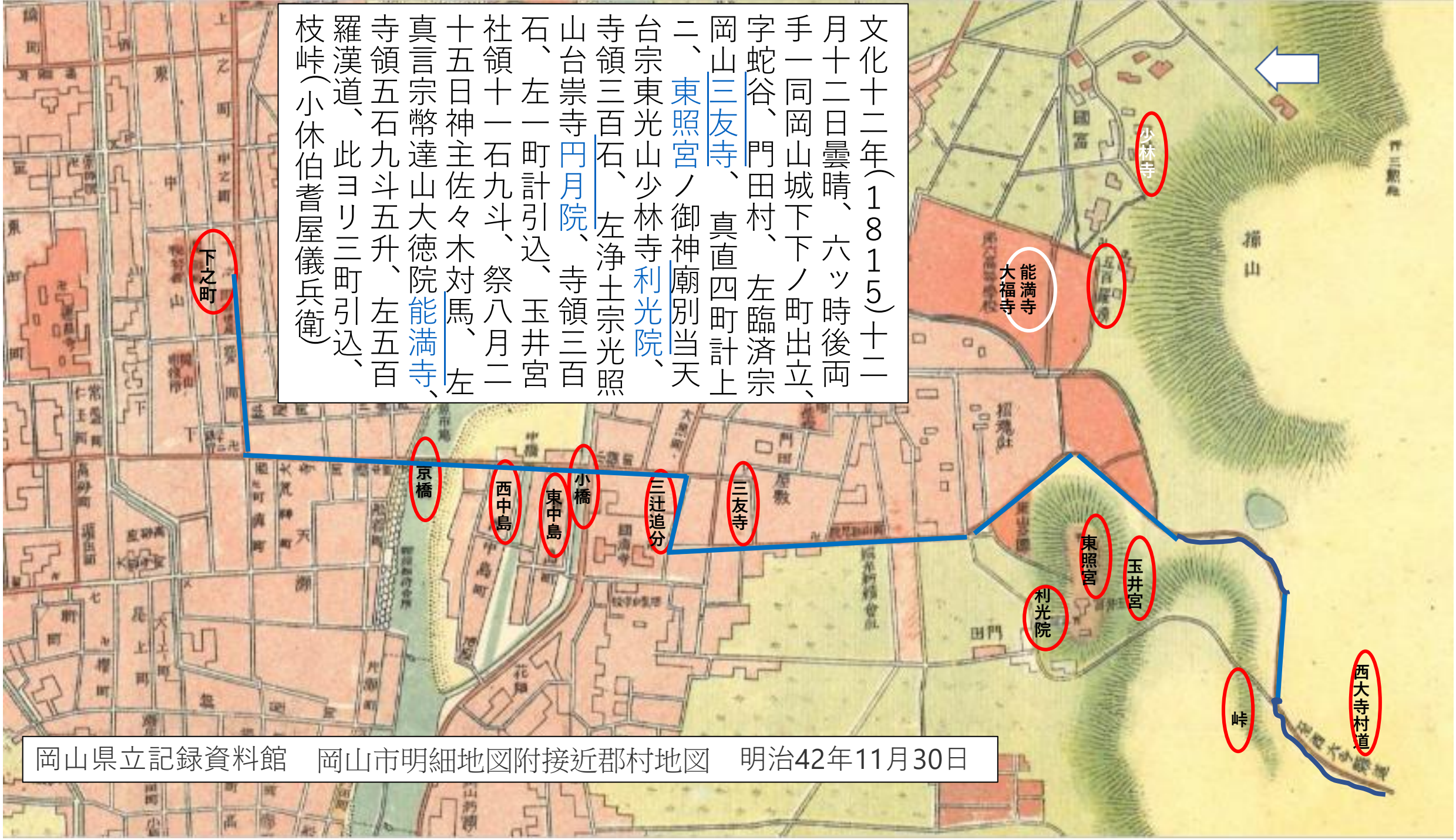
- http://www.city.okayama.jp/museum/yuraihi/16.html



文化十二年(一八一五)十二月十二日
岡山中西中島、京橋東橋詰より初(巳年の重測、中島橋幅二十四間)、東中嶋町、小橋二十三間、小橋町三辻追分迄是より西大寺村道新測

岡山県記録資料館
岡山新市街地図　附岡山後楽園図
昭和2年11月10日
http://archives.pref.okayama.jp/infolib/search/detail

文化十二年(1815)十二月十二日曇晴、六ッ時後両手一同岡山城下下ノ町出立、字蛇谷、門田村、左臨済宗岡山三友寺、真直四町計上ニ、東照宮ノ御神廟別当天台宗東光山少林寺利光院、寺領三百石、左浄土宗光照山台崇寺円月院、寺領三百石、左一町計引込、玉井宮社領十一石九斗、祭八月二十五日神主佐々木対馬、左真言宗幣達山大徳院能満寺、寺領五石九斗五升、左五百羅漢道、此ヨリ三町引込、枝峠(小休伯耆屋儀兵衛)



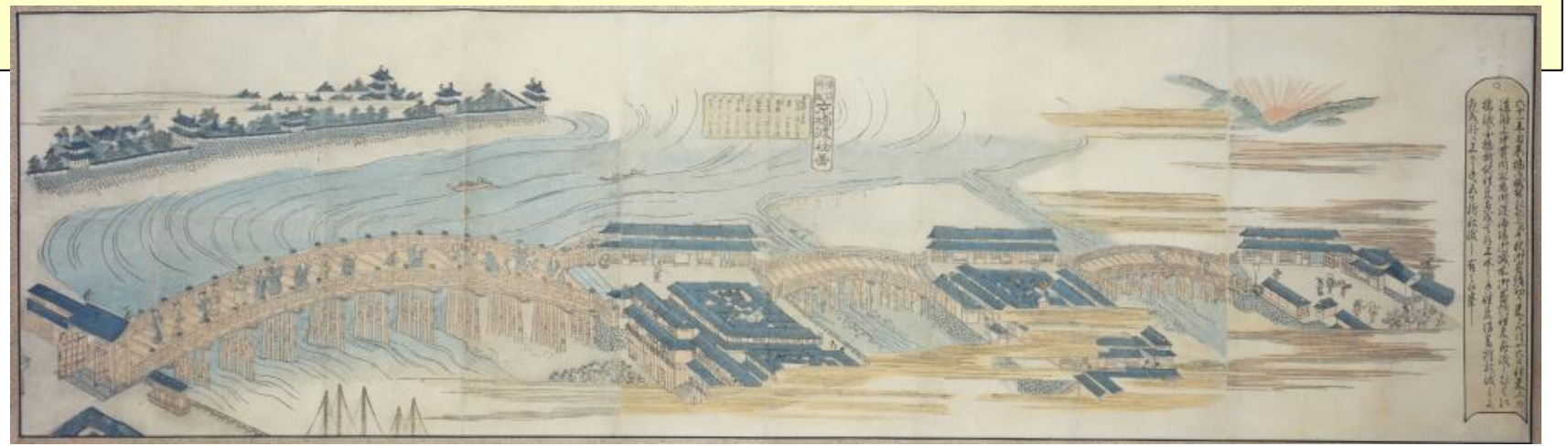
岡山県立記録資料館　岡山市明細地図附接近郡村地図　明治42年11月30日

京橋・中橋・小橋

- 岡山市内を縦貫する旭川にかかる3橋（京橋、中橋、小橋）は、天正年間に宇喜多氏が岡山城を居城と定め、城下にまちを開いてから、おそらく多くの年月を経ないうちに架けられたもので、市中へ国土の主要幹線である山陽道を取り込むとともに、旭川が東西に隔てる市街地を結び付ける役割を果たしてきました。最長径間の京橋はとくに3橋を代表し、それは開府から400年余りにわたって岡山のまちと栄枯をともにしてきました。
- 江戸期の京橋は、長さは68間(約124m)、幅は4間(約7.3m)
  https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000010021.html

- 京橋、橋本町西中島町の間にあり。西大川に渡す。いにしへは古京町辺にあり。慶長の比今の所に移す。
- 中橋、西中島町・東中島町の間にわたす。
- 小橋、小橋町・東中島町の間に渡す。

（吉備群書集成）



備前岡山京橋渡り初図

臨済宗岡山三友寺

- 三友寺（さんゆうじ）は、岡山県岡山市中区門田屋敷にある臨済宗妙心寺派の寺院。山号は鳳祥山。寺名は、池田輝政が慶雲寺の三要庵を改称したものである。
- 寛永9年（1632年）岡山藩主となった池田光政によって、播磨国（現在の兵庫県の一部）から移された。
- 石碑「日本ピンポン伝来の地岡山」平成18年岡山県卓球協会が建立。明治32年にエドワード・ガントレットがこの寺から卓球を日本に伝えたことを記念する。

玉井宮東照宮

本社は元児島郡小串村大字光明崎（今は米崎）に鎮座されていたが、応徳２年（1085）当東山に移転遷座して玉井宮と称せられるようになった。
この遷座にあたり、次のような伝説がある。
　その頃、社のあった山頂から、毎夜怪光が海面を照らし魚が恐れてよりつかず、猟師たちは困って其の事を神前に告げ、ご神託を受けた。ご神託は「御幣が舞い上がり飛んで行き上道郡門田の山中に立つ、そこへ遷座せよ」というものであった。その御幣が飛来し立った所がこの地（故にこの山を幣立山という）で、社名を玉井宮または玉の宮と称した。
　その後、正保２年（1645）藩主池田光政公の命により、この地に東照宮を勧請するにあたり、玉井宮は、下の広場（今の駐車場）へ遷座され、国内別格５社の1社に列せられた。
　明治１４年（1881）玉井宮と東照宮は合祀され、社名を玉井宮東照宮とし、県社に列格した。明治３３年（1900）旧玉井宮の建物を移転し、西日本屈指の大拝殿の建立等大造営が行われた。

天台宗東光山少林寺利光院

門田村　天台宗　本寺比叡山　東照宮別当。御社領三百石

備陽国誌より

東岳山松客寺利光院

『岡山市史 宗教教育編』（資料①）には、「玉井宮東照宮」の解説がある。その中に「東岳山松客寺利光院と号し、東照宮の造営と同時に現在の東山公園の地に寺院を建築し池田家から寺領三百石を付した」として「東叡山寛永寺（天台宗）の末寺」であることがわかる。

・『岡山県史料1』（資料②）の「県治紀事」によれば、「操山ハ元於旧岡山藩東照宮ヲ祭祀スル所也、維新以来、本殿ヲ除クノ外附属ノ社寺悉廃却ス」とある。

・『岡山市史 第5』（資料③）の東山公園の解説によれば、「この地域、藩政當時は利光院臺宗寺及び愛宕神社の境内なりしが、明治維新後利光院跡に醫學館を設け、愛宕神社跡に招魂社を建つ」とある。

・文久3年「備前岡山地理家宅一枚図」（資料④）には、「利光院」が地図中に示され、現在の東山公園の南側に位置している。

https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000232990

真言宗幣達山大徳院能満寺
聖満山法城院大福寺

幣建山能満寺大徳院

門田村。寺領五石。真言宗。本寺瓶井山安住院。前は玉井宮の社僧にて、徳吉村に有り。焼亡の後、塔の山に移る。然れども玉井宮へ且暮掃除行事等勤めがたきによりて、玉井宮の山内に移す。（備陽国誌より）

聖満山法城院大福寺

天平勝宝年間（749年 - 757年）、報恩大師が和気郡伊部村に創建した備前四十八ヵ寺の一つ。寛永年間（1624年 - 1644年）に上道郡古門田村へ移転し、その後現在地へ移転した。安永元年（1772年）に龍尊の代に本堂、大師堂、毘沙門堂を建立、寛政11年（1799年）、尊俊の代に客殿、釣屋、庫裡等を建立した。大正15年（1926年）には幣立山能満寺大徳院を合併した。昭和20年（1945年）6月29日の岡山大空襲で安永、寛永再建の諸堂のうち客殿、釣屋、庫裏、土蔵、山門を残して焼失した。現在の本堂、大師堂は平成15年（2003年）に再建されたもの。平成24年（2012年）には書院が建立された。（大福寺（岡山市）- Wikipedia より）

浄土宗光照山台崇寺円月院

- 高照山台崇寺圓月院
- 門田村　寺領三百石、浄土宗。本寺江戸増上寺
- 正保四年創建。其時花畑に有之萬治二年今の所へ移る。

備陽国誌より

天台宗瑞光山仏心寺

正徳4年（1714年）岡山寺観念坊円然が池田綱政の許しを受けかつ、綱政の子継政の援助で建てた天台宗の寺です。

臨済宗護国山曹源禅寺

第八次測量日誌

円山村ニ臨済宗護国山曹源禅寺、 国主ノ菩提寺国印九十九石五斗四升弐合

備陽国誌

円山村。寺領二百石。禅宗。本寺京都妙心寺。

元禄十一年(1698年)綱正君御創造。児島郡郡村永昌庵を此処へ移して、改めて護国山曹源禅寺と号す。

真言宗金陵山西大寺

嘉永７年（1854年）に焼失した本堂が、文久３年（1863年）に再建されましたが、再建されるまで会陽を執行する為の仮の本堂として、岡山市久保に在った成就寺の**薬師堂**が現在の六角経蔵辺りに移築され、ここで会陽を行っていたと云われています。昭和40年代になるとお堂は老朽化が進み取り壊されることになりましたが、篤志家により堂宇が再建されると、ご本尊薬師如来がここに移され、新たな信仰を集めています。薬師如来は12の大願を発し、瑠璃光を以って衆生の病苦（精神面を含め）を救うとされています。

真言宗金陵山西大寺坊中六院

第八次測量日誌	備陽国誌	西大寺町誌	説明
真言宗金陵山西大寺	金陵山西大寺	西大寺観音院	
寺領 五十七石七升三合	寺領 五十七石七升餘	寺領 五十七石七升三合	小早川氏が国除かれ、池田氏に代はりても、世々寺領五十七石七升三合を寄進し、以って明治の初に至った。(P315)
観音院	院主　観音院	観音院	天文以後は、今の観音院が一山の宗務を掌ったことは明らかであるが、観音院が新たに起って、これに変わった者か、或は清平寺が観音院に改称したのかがつまびらかでない。(P310)
安楽院	安楽院	安楽院	記述なし
普門院	普門院	普門院 (普門坊円満院)	西大寺字新町にあり、奈良朝の天平勝宝7(755)年5月の創立、報恩大師の開墾である。明治44年9月4日普門院は円満院の合併を許可された。(P330)
円満院	円満院	成光院 (後の円満院)	西大寺字掛之町にあり、奈良朝の天平勝宝2(750)年3月の創立と伝わる。宇喜多家が藩主の時には、扶持があって中本寺といった。明治44(1911)年9月4日、普門院に合併す。(廃寺の項P340)
千手院	千手院	千手院	西大寺字本町にあり、奈良朝の天平勝宝3(751)年10月、周防国玖珂庄藤原皆足が創立し、宝亀9(778)年9月、安隆上人が再興したものと伝えられている。今は観音院に合併されている。(廃寺の項P340)
持命院	持命院		西大寺本町にあり、天満屋化粧品店の裏手にあった。いつの頃創立されたか不祥だ。明治の初めまであった。(廃寺の項P341)
		清平寺	西大寺別当応仁元年寄進状に此の名見ゆ。応仁から天正の頃までは別当として一山の宗務を掌っていた。(P310)
		円蔵防	慶長年間に至って之を見るも、其の後は聞くところなく(P310)
		法泉坊 般若坊	記録の上には其の名を見ざるも西大寺の寺中に属し、その遺跡は今尚町の西南に存在し数基の石碑と共に其の名を留めている。(P310)
		観音坊	慶長以後の文書に見ゆ(P310)

岡山城下下ノ町(福岡屋吉郎兵衛)来訪者

細川園右衛門	伊能忠敬の弟子として知られる榎本武規（箱田良助）の父。海軍副総裁として幕府海軍の事実上のトップとなる武揚は孫になる。
細川中書	
谷東平	備中国小田郡大江村（現在の井原市大江町）の庄屋に生まれ、幼少のときより数学が得意で、測量の技術を学び、その後大坂、江戸に出て和算や暦学を学んだ。
瀬尾是輔	
妹尾新三郎	伊能忠敬門人　下道郡有井村の人

文化8年12月12日
止宿坂口屋松左衛門訪問者

上道郡	草ヶ部村	井上三郎兵衛
和気郡	香登村	伊賀安助
磐梨郡	江尻村	土井辰治郎
御野郡	坂根村	左近義三郎
邑久郡	下笠加村	森太郎右衛門
	新村	草井六郎右衛門
	大ヶ島村	中山文治郎